麻原彰晃の世界 PART15

在家修行者座右の書

絶対幸福への道

仏教実践における在家幸福への道

麻原彰晃



麻原彰晃の世界 PART15

在家修行者座右の書

絶対幸福への道

仏教実践における在家幸福への道

麻原彰晃







はじめに

二千六百年前、覚者サキャ神賢（釈迦牟尼）は在家の信徒のために、布施と持戒、そして簡単な瞑想を説かれた。さらに、サキャ神賢が没した後に体系づけられた大乗仏教においても、その基本的な修行方法である六つの極限（六波羅蜜）の第一に布施、第二に持戒が位置づけられてる。

日本にもたくさんの仏教の宗派があり、新興宗教といわれているものの中には仏教を標榜するものが少なくない。そして、決まったようにどこでも布施と持戒を説いている。しかしながら、なぜ布施をするのか、何のために戒を守るのかを論理的に説明しているところは、残念ながら皆無といっていい状態である。ただ、御利益があるから「布施を

しなさい」「戒を守りなさい」といっているにすぎないように見受けられる。

この、今まで曖昧にされてきた布施と持戒の真義を、麻原尊師は明快に、そして実に多くの切り口をもって説き明かしておられる。

麻原尊師は、「仏教は科学的である」と言われる。どんな教えにも必ず論理的な背景があり、その論理で事象を割り切ることができるとおっしゃるのだ。その例に漏れず、布施と持戒は、本当に幸せに生きるために、高い世界へ転生するために、そして解脱・悟りを得るために欠かすことのできない修行であり、その果報はなした者になした度合いに応じて返ってくるということが、ここに収められた麻原尊師の説法をお読みいただければご理解いただけることと思う。

本書が、解決できない苦しみに悩んでいらっしゃる方、環境を改善したいと思っていらっしゃる方、将来に不安のある方にとって灯明となるならば、この上もない喜びである。

一九九二年二月

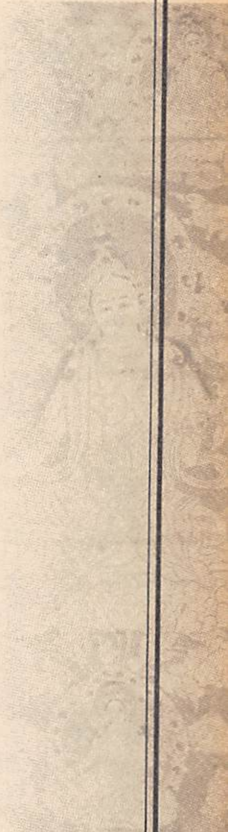
オウム出版広報編集部

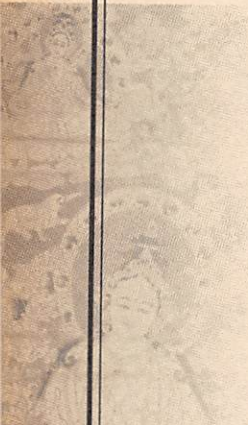
※現在オウム真理教では、南伝系の原始仏典であるパーリ聖典の翻訳・研究に力を入れており、従来の仏教用語を、原点に忠実な訳語に変更しつつあります。この比較については、本書の巻末にある言語対比表をご覧ください。

麻原彰晃の世界 ❖ PART15

絶対幸福への道

――目次――





第一部

人生を幸福に生きたいあなたのために

◆第一話　思いどおりの人生への第一歩

「十戒、その素晴らしい恩恵」

◉戒の実践——幸福への鍵

今日はどのようにしたら現象的に幸福になれるか、それは結局、言い方を換えるならば、持戒を守るということ、あるいは持戒を守らないということ、この表裏の関係に、その人が幸福になる、ならないというものがあるんだよ、という話をしたいと考えるわけです。

それはどういうことかというと、まず、ここに修行者がいた、あるいは修行者でなくてもいい、凡夫がいたとしよう。この人は殺生をしなかった、全く生き物を殺さないで、すべての生き物を慈しんだとしよう。生き物を慈しむということ

は何を意味してるかというと、その背景には心の優しさというものがあるよね。だから、心の優しい人の周りには、当然、心の優しい人が集まるわけだから、この人はどうだろう、安らいだ生活が送れるだろうか、安らかでない生活が送れるだろうか。

（信徒）安らいだ生活。

うん、そうだね、安らいだ生活が送れる。

そうすると、今度は逆にだよ、もうとにかく、自分を害する生き物はみんな殺してしまえと、どんどん殺したと、あるいはどんどんいじめたとしよう。この人の心の状態というのはどういう状態だろうか。殺伐とした状態だろうか、それとも安らいだ状態であろうか。——そうだね、殺伐とした状態だね。

だから、殺生をしないで生き物を慈しむ、これを実践している人にとっては、この世は安らいだ生活、安らいだ空間になるということになる。逆に、殺生をして、あるいは生き物をいじめる人にとっては、この世は殺伐とした空間ということになる。

同じ、「この世」という空間にいながら、例えば、この殺生という一つの戒の実践をなすか、なさないかによって、わたしたちは安らかな生活を送ることもできるし、あるいは殺伐とした緊張の生活に放り込まれるということになるわけだ。だから、それは、あなた方が、どちらの道を選ぶか、あなた方が考えなければならない。これが第一だ。

◉施し——心の解放のために

次は、ここに自分のものがあって、それを施す人がいたとしよう。どんどん施す人がいたとしよう。この人は、この行為の実践によって、執着というものが落ちると思うか、落ちないと思うか。実践をし続けているうちに、落ちると思うか、落ちないと思うか。

（信徒）落ちる。

そうだね、落ちるね、当然。

では、もう一つ聞こう。ここに、人の物があって、それを盗んでいる人がいた

としよう。この人は周りを気にして、いつ見つかるんじゃないか、いつ逮捕されるんじゃないか、あるいは、いつ人に詰め寄られて、殴られるんじゃないかという気持ちに襲われると思うか、襲われないと思うか。

(信徒) 襲われる。

そうだね、襲われるね。そうなると、この偸盗(ちゅうとう)、盗みというものの背景に何があるかというと、盗みをしないで施した人は心が執着から解き放たれる、安らかな状態になれるということだ。

では逆に、盗みをした人はどうなるかというと、その人は周りを絶えず気にしなければならない。緊張の状態に追い込まれるわけだ。確かに、盗んだときに、一時的に物を得て幸福感を味わえるかもしれないけど、その裏側に心の緊張というものを得るわけだから、さあ、果たしてどちらが得だろうかという問題になる。これも、あなた方が考えなさい。これは第二の戒だね。

◉不邪淫——心を下降させないために

では次、第三の戒だ。邪淫だね。これは修行者だったら、あなた方男性も女性も、オウムの会員だったら経験してるはずだ。例えば、性エネルギーを漏らした状態と、漏らさない状態とでは、どちらがいい瞑想ができるかという問題。それからもう一つは、クンダリニーの上昇は性エネルギーを漏らした状態と、漏らさない状態では、どちらの方が上昇するか。漏らさない方が体が熱くなるよね。漏らしたら体が冷えるよね。これが修行者における第三番目の邪淫の戒だ。

そして、在家の修行者にとってはそうではない。じゃ、性欲があって異性をだまして、あるいはお金を使ってセックスをしたとしようではないか。そのときに性的な感覚、つまり触覚的な喜びは生じる、これはOKだね。しかし、そのときに心は殺伐とすると思うか、それとも心も幸福感に浸ると思うか。どうだ、これは。殺伐とするよね。

密教の経典ではこのようにうたわれているよね。たとえ夫婦であっても、相手が悲しみに暮れているとき、たとえ恋人であっても、相手が、例えば怒り狂って

いるとき、あるいは悲しみに暮れてるときにセックスをしてはいけないと。
　これは何を意味してるかというと、要するに関係が深ければ深いほど心はつながりが深いわけだよ。つまりアストラルとかコーザルでのデータの入れ換えが起こりやすいわけだ。
　そうなると、例えば、相手が悲しみに暮れてると、セックスをしている最中に、その悲しみが自分に移ってしまう。ね。そして、相手が泉のように悲しみをわき出していたならば、彼女の、あるいは彼の悲しみが減らないで、二人が悲しまなければならなくなってしまう。二人が暗い気持ちになってしまう。怒りも同じだ、これは。だから、こういう状態のときにはセックスをしてはいけないよ。
　それから、もう一つ、生理中にセックスをしてはいけない。なぜ、生理中のセックスはいけないかというと、アパーナ気優位の状態になっているから――アパーナ気というのは何かというと、下降させるエネルギーだったね――その優位の状態でセックスをすることによって、よりいっそうアパーナ気は強くなるわけだ。そうすると、アパーナ気が強くなると心というものは、それと連動して引き下が

るから、下の世界に落ちてしまうから、やってはいけない。よく日本の修行者は血でけがれるとか言うんだけど、それはあり得ません。すべては気の働きで考えてください。

◉嘘をつかない——堂々と生きるために

はい、次は、質問しよう。いつも真実をここに語っている人がいたとしようじゃないか。この人は堂々としていると思うか、堂々としていないと思うか。

(信徒) 堂々としてます。

そうだね、堂々としてるね。では、いつも自分の都合のいいように嘘だけをついている人がいたとしようじゃないか。この人は堂々としていられると思うか、いられないと思うか。

(信徒) いられない。

そうだね。だから、嘘をついてはいけないよということになる。つまり、堂々と、自分はここに存在していると、そして堂々と生きたければ、人の顔色を伺っ

て生きたくなければ真理を語りなさい、正しく言葉を語りなさい。これが第四番目の戒だ。

◉不飲酒――五蘊をコントロールしなさい

そして、在家においては第五番目戒、酒の戒がある。出家者においては、また違った戒があるよね。まず、在家の戒の第五番目のできるだけ酒を飲むなというのは、もうわかるよね。酒を飲むと自分の意識というものはコントロールしやすくなるか、しづらくなるか。

（信徒）しづらくなる。

しづらくなるね。だから、酒は飲むべきではないと、できるだけ。

どういうことかというと、ここに真我（しんが）があって、真我が自分の心、これはあるいは「識」という、意識という言葉で言ってもいいかもしれない、あるいは、意志、欲求のコントロール、これは、仏教では「行」といっているよね。そして、イメージ、これは「想」といってる。そして、感覚、これは「受」といってる。

そして、肉体的なもの、肉体の動きをコントロールするために、どうしたらいいか。これを自由自在に操るためにはどうしたらいいかというのが、ヨーガであり、仏教である。

そうすると、酒が入ると、この五蘊(ごうん)といわれている、五つの集積といわれているものがコントロールしづらくなる。つまり、修行の害である。

「じゃあ、おかしいじゃないか、麻原。禅でも、今、他の仏教でも飲んでるぞ、酒を。」

と。いや、それは、日本の仏教は飲んでいるだろうけど、インド仏教では飲んでいないよ。だから、わたしは日本に真理はないですよと言ったのは、そこだ。

酒を飲んだら、当然コントロール不能になる。ということはだよ、例えば、マリファナ、あるいはLSDといわれているもの、ああいう覚醒剤的なものも、あるいはタバコも害だということになるね。薬物でコントロールすることは正しくないわけだ。

じゃあ、仙道で言うところの地丹(ちたん)はどうだ。これも薬物だ。確かにそのとおり

だ。地丹は使うよね。では、何のために地丹を使うのかというと、これはエネルギーの補強のために使うんだね。だから、意味合いが違うわけだ。つまり、覚醒させるために使うのではなくて、逆にコントロールしづらい状態でエネルギーを強める、これが地丹の狙いだからね。

その負荷分、負荷というのは、例えば、あなた方が修行していて、何も持っていない状態で歩いているとしよう。そして、例えば地丹を飲むことによってエネルギーが強まる、煩悩（ぼんのう）が強まる。そうすると、あなた方は普段の状態に五キロ、十キロ、二十キロと負荷重量を乗っけた形になるんだ。その状態で歩きなさいよというのが地丹だからね。

そして、その地丹のエネルギーを昇華していくのが仙道だね。仙道というのはタントラと、まあだいたい同じようなものだと考えてください、わたしの言ってる仙道という意味合いはだよ。

では、質問しよう。その地丹についての質問だけども、例えば、普段二十キロをしょって歩いている人が全くしょわないで道を歩くことができたら、それは楽

だと思うか、それとも大変だと思うか。楽だろ。これが地丹の理論だ。ところが今まで何もしょってなかった人が二十キログラムしょったら大変だ。だから、地丹を飲んで修行を始めると大変になるんだよ、修行者は、煩悩に巻き込まれてしまって。それで失敗して修行を挫折する人もいる。だから、この道を選択する人は選ばれた人でなければ駄目だね。

はい、じゃあ、酒の戒までいったよね。

◉「両舌、悪口、綺語」——正しく優しい言葉を

次、人と人とを仲たがいさせてはいけないよということについては、どうだ。例えば、AさんにはBさんの悪口を言うと、BさんにはAさんの悪口を言ったら、AさんとBさんは仲たがいします。これはOKだね。では、もし、このAさんとBさんが、あなた方の発言によって仲たがいしたんだということを知ったならば、どうだろう。それはあなた方は恨まれるだろうか、喜ばれるだろうか。恨まれるね。だから、この両舌というものをしてはいけない。AさんとBさんを仲たがい

させてはいけない。

では、今度は逆に、AさんとBさんを、あなた方が中にいて、もし取り持ったら、仲良くさせたら、それはどうだろう。AさんとBさんが、あなた方が、それをやってくれたんだとわかったとき、あなた方に対して感謝するだろうか、しないだろうか。感謝するよね。

では、ここにAさんがいて、あなた方が本当は心に悪く思っていないんだけど、悪口をペラペラとしゃべったと、そのAさんの悪口を。そのAさんは気持ちがいいだろうか、悪いだろうか。

（信徒） 悪いです。

気持ちが悪いよね。

では、もし、あなた方が正しい言葉で相手に優しく絶えず語りかけたとしよう。このとき相手はあなたに対して喜びの気持ちを持つだろうか、それとも嫌な気持ちを持つだろうか。おべっかではないんだよ。正しくと言ってるね。正しく優しい言葉をかける。これが、悪口や、不悪口との違いだね。つまり、悪口を言うな

かれの背景にあるものだ。

ではだよ、例えば、今、タレントの中でいろんな面白い言葉を発する人がいるけども、これは一見楽しいよね。しかし、その発している人に対して、あなた方は信頼の念が持てるかどうか。そういう発言をしょっちゅうしている人に対して信頼が持てるかどうかだ。面白いとは思うけど、信頼しないんじゃないか。もし、面白いから信頼するという人がいたら、この「綺語（きご）」というのは善ということになる。そうではなくて、そういうことばっかり言ってる人は、確かに遊びとしては楽しいかもしれないけども、真理という意味においては、それは尊敬できないと考えるんだったら、綺語というものは、やはり十悪の一つということになる。

やはり優しく正しく語った人の方がいいんじゃないか。あなた方が修行しようと考えたならば、尊敬しようと考えたならば。ここでは、一種の沈黙があるね。皆さん、面白いのが好きなのかもしれないな。

では、もう一つ見方を変えよう。その相手が、楽しくというか、面白い言葉をいろいろ発してるときに、時間はどんどん過ぎていくよね。このとき、あなた方

は得るものがあるか、ないか。

（信徒）ない。

ないよね。では、今までの釈迦牟尼が説いたときからの綺語という定義を変えてしまおう。つまり時間の浪費だから悪業であると。今、あなた方の感覚からいったら、それが正しいだろうから。こういう法なんていうものは、要するにきちんと背景に真理があればよろしい。

そして本当はね、一つの戒には、今説明したような一つずつの意味合いではなくて、たくさんの意味合いがある。その一つずつをわたしは引っ張って、あなた方に説明している。まず、あなた方は、その一つを押さえなさい。そうすると、あなた方も時間があまりないわけだから、修行者としての。だから、そういう綺語を発してはいけない、それから聞いてはいけないということになる。そして、優しくて丁寧な、ね、言葉、そして真理を語ると、その実践をなしなさい。そうすると、そこで七つだ。

◉貪りを離れなさい

では、ここに物があって、例えばこれは十人で分けるものを、「これはわたしの物だ」と、独り占めした人がいたとしようじゃないか。この人に対して、あなた方は敵意を感じるか、それとも「ああ、この人は素晴らしい」と感じるか、どうだ。これが、貪りだ。

今日はすべて、あなた方と他という関係で話を説いているよ。また、次の機会には違った角度で説くかもしれない。

では、ここに十個の物があって、十人いて、十個のうち九個を皆に分け与え、最後の一個までも九等分して、分け与えた人がいたとしようじゃないか。その人を、あなた方は素晴らしいと思うか、思わないか。どうだ。

(信徒) 素晴らしいと思います。

これが、貪り(むさぼ)を離れた状態だね。

◉怒りの滅却――菩提心を培う

ではもう一つだ。ここに人がいて、理由もなく、しょっちゅう大声を出して怒鳴って怒ってたとしよう。この人に対して、「ああ、この人は素晴らしい」と、「尊敬できる」と考えるか。

では、例えばだよ、マハーモッガラーナみたいに、あるいはウッパラヴァンナーみたいにね、たとえ殴り殺されても、たとえ頭を叩き割られても、これは自己のカルマである。そして、彼らがわたしを殴り殺したことによって、わたしの、このけがらわしい肉体というものを捨てさせてくれたことを感謝する。その偉大なる功徳によって彼らも覚醒してくださいよ。彼らも真理に到達してくださいよというような心の持ち主がいたとしたら、あなた方は尊敬できるか。これが、怒りの裏側にあるものだ。だから、今、九つ説いたよね。

◉無智の滅却――真理を実践するために

では最後に。

ここに真理の実践がある。しかし、その真理の実践をすることによって、自分の執着を捨てなければならない、あるいは自分の物を布施しなければならない。そして、その人は見えていないと。それを実践することによって高い世界へ上がれるんだと。あるいは、次の転生は素晴らしい世界に行けるんだと、あるいは解脱できるんだ、あるいは成就でききんだと。あるいは、怒りを捨てたことによって、同じように綺語を発しなくなったことによって、悪口をなさなかったことによって、あるいは、Aさんと Bさんを仲たがいさせなかったことによって、酒を飲まなかったことによって、あるいは邪淫をしなかったことによって、あるいは盗みをしなかったことによって、あるいは嘘をつかなかったことによって、あるいは、殺さなかったことによって、高い世界へ行けるということはわかっているけども、例えば、そんなのは未来がわかるわけではないから知らないと。

そして、知らなかったがために地獄へ落ちたとしようじゃないか。あるいは餓鬼へ落ちたとしようじゃないか。あるいは動物へ落ちたとしようじゃないか。このときにだよ、あなた方は、「わたしはあのとき、あの教えを聞かなくても、こ

れでよかったんだ」と考えるだろうか、考えないだろうか。「いや、わたしは、あのときあの教えは聞かなくてもよかったんだ。これで幸せだ」と考えるだろうか。

だから、そのためには、初めから説いた、酒も入れて十の戒を、つまり全部で十一あるわけだね、在家と出家と今合わせているわけだから。この十一のうちの十の戒をきちんと実践すると。そして教義を読んで、経典を読んで、真理と照らし合わせる、あるいは現象と照らし合わせることによって、それが真理であるということを直感したと。そのとき修行に入れるかどうか、入っていける人、入っていけない人、両方いるわけだけど、入れるかどうかということが、一番大変な、あるいは大切な戒である、無智の壊滅（えめつ）ということになるね。無智というのは何かというと、要するに真理を実際に知らないということだ。その壊滅ということだ。

そして、あなた方が、このトータルで十一の戒を実践したならば、あなた方は当然、幸福な世界へ行けるだろうし、この世でも幸福になれるはずだよというのが、この戒の意味合いなんだよ。

◉役者たちの転生

一つ、面白いというか、偉大な釈迦牟尼の話がある。わたしは、釈迦牟尼の偉大さをいろいろと証明してるけども、『阿含経典（あごんきょうてん）』の中に「聚落主相応（じゅらくしゅそうおう）」というのがある。その中で、歌舞伎役者について法を説いていらっしゃるところがある。

そのインドというのは、カースト制が昔からあって、歌舞伎役者は歌舞伎役者で、一つの村を形成している。その村を形成している村の長、つまり一番長の人だ。この人が釈迦牟尼のところに行った。そして、釈迦牟尼に、こう聞いているわけだ。

「先祖代々、わたしたちは皆さんを喜ばせている、歓喜させている。だから、わたしたちは喜楽という天界へ行けるということですけども、吉笑という天界へ行けるということですけども、どうでしょうか」

と。それを三度聞いて、釈迦牟尼は、

「わたしに、そういうことは聞いてはいけない。」

と、三度返答していらっしゃる。そして、四度目に、

「じゃあ、わかった。村の長よ、話そう。
昔から人間というものは、怒り、貪り、そして、無智、あるいは愚痴に覆われていた。そして、役者というものが現われて、怒りの場面を演じて、それによって凡夫たちは、ここではこう怒ればいいんだなと考えて、怒りのエネルギーがいっそう強くなった。あるいは貪りの場面を演じると、凡夫はそれを見て、ここの場面ではこう貪ればいいんだなということで、いっそう貪りが強くなった。あるいは愚痴を演じる、あるいは真理を否定する無智を演じるということによって、凡夫は、ここの場面ではこう演技すればいいんだなと考え、いっそう、そのエネルギーが強くなった。
だから、村の長よ、役者は吉笑という、あるいは喜楽という地獄へ落ちるんだよ。そして、それをもっと言い換えるならば、それは地獄と動物界である」
と言ってらっしゃるんだよ。いいかな。
では、わたしは、どうしてそれを証明しようとするのか。これはポイントだね。
これはちょうど、わたしの「水中エアータイト・サマディ」のときの新聞に――

「朝日」か「読売」だったかと思うな――新聞に猿のことが書かれていたんだよ。で、猿には、旧型の猿と新型の猿がある。そして、新型の猿――あれは南アメリカだったと思います――新型の猿というものは、すごく芝居がうまいんだって。泣きまねをしたり、とにかく、芝居がうまいんだそうだ。

あれ、これはおかしいね。釈迦牟尼は地獄の道と動物の道があると言ってらっしゃるよね。ということは、彼らはわたしの魂の友である人間だったことがあるんだということだね。そして、そこで役者を演じていて、無智なるがために、そのカルマによって猿に転生したんだということが言えるわけだ。

ということは、一つの動物の世界において、それがあるとしたならば、もっとひどいのは、きっと地獄に落ちてるだろうね。わたしがあなた方に提示できる例というのは、そういうことしかない。

そして話を戻すよ。あなた方が十の戒のうち、少なくとも五つの戒をできるだけ実践したならば、他の人よりは少しは良い世界へ行けるだろうということを保証できよう。もちろん、完璧に実践したならば、少しの罪もなさないように実践

したならば、それは、より高い世界へ、あなた方が飛躍する、飛翔することは間違いなかろう。いいですか。では、今日の説法これで終わりにしましょう。

一九八八年三月二十七日　東京にて

◆第二話　この世の苦しみを越える秘法

「幸福を呼ぶ帰依・布施・持戒」

◉帰依——何に魂をゆだねるか

今日の説法は修行のベースとなるような、そしてあなた方に利益をもたらすようなことについて話したい考えています。

まず、修行に必要なものは何かといったら「信」、あるいは「帰依」ですね。そして、次に三つの布施がある。そして十の戒めがある。そして三つの精神を鍛え上げる訓練がある。そして、三つの修行プロセスがある。そして、十の瞑想プロセスがある。そして、最後に真理がある。これが一般的に大乗の仏教といわれている六つの極限を現代的に言い直した内容です。

まず、帰依から入りましょう。

いったい帰依とは何かというと、いろいろな世界が構成されていて、例えば暴力のカルマのある人は、その一群を形成する。これが地獄だね。例えば、貪りのカルマの強い人、絶えず物を求めている人。これは餓鬼の世界を形成する。真理を見つめようとしない生き方をしている生き物たち。これは動物の世界を形成する。そして情のしがらみに引っかかっている、情の影響を受けないときは正しく物が見られるんだけども、一たび愛情という色眼鏡が、愛情という障害物が目の前に現われたときに、それに影響される一群。これがヒューマン・ビーイングだ、人間です。そして、ある程度の功徳があるが、しかし、まだ完全な状態ではない。背景に闘争本能のある生き物たちの集合体。これが阿修羅だね。だから、阿修羅を嫉妬の塊だといっているわけだね。そして、一応は徳が満ちて、満足し切った状態、徳を使い果たしている状態。これがデーヴァ、天界だね。

で、帰依というものは、今の六道でもわかるとおり、どの意識の世界に自分の魂を、自己の真我を委ねるのか、これが帰依なんだよ。

◉清らかな水の中へ――浄化される魂

例えば、真理に帰依をするとしたら、その六道の背景にある、いや、それよりも高い世界に根差している教えというものに帰依するわけだから、当然帰依を続けていくうちに、真理の実践を続けていくうちに、あなた方の心、魂は浄化されるであろう。

これはちょうど、水にたとえることができるんだね。ここに濁った水がある。ここに色のついた水がある。ここに藻の生えた水がある。ここに透明な水がある。この例えば四つの水の存在している湖があるとして、そのどの湖の水をあなた方が飲むかと、あるいは、あなた方がどの湖で泳ぐかということとね、帰依というものとは全く同じであると考えたらよろしい。

もちろん、わたしたちヒューマン・ビーイングはね、人間は、決して魂が清らかだとはいえない。そして、周りを見ると、わたしたちと同じようなカルマの人たちがいるわけだから、それと真理とを比較した場合、初めは違和感がある。あるいはつらいことがあるかもしれない。

しかし、清らかな水に、例えば身を委ね、実践している人たちの話を聞き、そして自分自身も少し実践してみて、自己のけがれというものを知って、もし真理に帰依することができたならば、たしかに今まで慣れた水、今まで慣れた人間の世界というものは楽だけれども、わたしたちに本当の喜び、本当の幸福を与えてくれるものではないなということがわかるはずだ。

つまり、帰依というものはどの世界に没入するか、どの世界の水を飲むか、どの世界の水の中に浸り切るかということの意思表示、そして試みなんだね。

◉煩悩を落とす——真理に対する帰依

例えば、ここに色のついた水があって、その人はその色のついた水の中で生活していたとしよう。ところがその人にある日迷いが生じ、そしてドブ川の中に入ることが幸福なんだという誤った情報を得たとしよう。その人の魂はどうなるかな。

色のついた水というのは、物事を正確に映し出さないだけであるから、そう大

した害はない。しかし、ドブ川の水を飲むとしたら、それには、わたしたちの体を害するものもたくさん入っているだろう。これが間違ったものに対する帰依ということなんだね。

逆に広大なここに湖があったとして、その広大な湖が透明だったとしよう。そして、そこに今まで色のついた水の中で生活していた人が入って、体を清めていくと。初めは自己のけがれが、その透明な水に浸透して、自己の周りは若干けがれたように見える。しかし、広大な湖だから、その人のけがれぐらいは簡単にぬぐい去ってくれる。そして、いつしか自分自身も、今までついた色が抜けて透明になってしまう。これが真理に対する帰依なんだ。

そして、真理というものは、今わたしが話したとおり、あなた方の煩悩を一つずつ落としていく――抑えるんじゃないよ――落としていくプロセスが必ず含まれています。これは真理の教えである。そうではなくて、あなた方の煩悩というものを一つずつ増やしていく教えがあるとしたら、それはあなた方を濁す、つまりドブ川の教えだということになる。

そのどちらをあなた方が選択するか。これを釈迦牟尼は択法覚支（ちゃくほうかくし）と言っているんだね。それでこれは、真理に到達する偉大な七つの条件のうちの一つであると言ってるわけだ。

◉帰依から布施へ

そして、今あなた方はここに、透明になるための、あなた方の魂を向上させるための機会に恵まれた。このチャンスを、あなた方がものにできるか、あるいはものにできないかは、あなた方の過去世から現在に至るまで積み上げてきた善業と悪業の結果であると考えたらよろしい。

この帰依というものが完全にできた段階で、いや正確にいうならば、帰依というものは実践だから、あなた方が最終の解脱をするまで帰依ができたとは言えないわけだけれども、少なくとも、つらいけれども帰依をして、実践をしていこうと考えた段階で、第一ステージの布施の極限の修行に入っていくことになる。

この布施の極限というのは何かというと、三つあるわけだね。まず、物質的な

執着を落とすための、あなた方の持っている財産の布施をしなさい。二つ目に、あなた方の心を柔軟にし、清めるための、他人に優しくする布施をしなさい。三つ目に、あなた方が今生で、あるいは来世でも真理に巡り合えるように、真理を伝播する布施をしなさい。これが三つの布施だ。

今日は、このことについてはあまり触れない。わたしが話したいのは、この次の持戒だからね。で、この三つは何を与えるかというと、あなた方に行為として――これは財施だね――あるいは心として――これは安心施のことだね――あるいは真理として――これはあなた方を解脱に導くという意味においてね――の堅固たる土台を築き上げることになる。

そして、この第一ステージが終了した段階で、第二ステージに入る。今日は会員だけではなく、非会員の方もいらっしゃるから、これは非会員の方が今日この話を聴いて今日から実践するだけでも、あなた方に恩恵を与えるわけだから、この話をしたいと考えます。

◉十戒――三つのカルマの浄化

まず、これはヨーガにしろ、仏教にしろそうだけども、十の戒め、そのソースとなっているものに、三つのカルマの浄化というものがあります。

それは何かというと、まず身のカルマを浄化するために生き物を殺してはいけないよ。盗みを働いてはいけないよ。邪淫、つまり愛のないセックスをしてはいけないよ。

口を浄化するための行為として、嘘をついてはいけないよ。必要のない言葉をしゃべってはいけないよ。悪口を言ってはいけないよ。人を仲たがいさせるような言葉を吐いてはいけないよと、四つの戒め。

そして、心を浄化する訓練として、貪りを離れなさいよ。怒りを超越しなさいよ。そして真理を見極めなさいよ、真理を否定してはいけないよという、心の三つの戒があります。

これを合わせて十戒だといっているんだね。さあ、この十戒は一見なぜ行なうかわからない、そのように考えるかもしれない。しかし、これには深い深い意味

合いがあるんだね。それについて今から話そう。

◉不殺生――与えられる幸福と優しさ

まず、生き物たちを殺すということは、あるいは生き物たちをいじめるということは、そのとき心にはどういう働きが生じるだろうか。それは自己を保存したい、あるいは自己のために他はどうでもいいんだという心が生じるだろうか。それともすべての生き物が、あるいはすべての人たちが幸福になってほしいという考え方が生じるだろうか。どちらですか。

（信徒）前の方だと思います。

そうだね。そして、「類は友を呼ぶ」のたとえがあるけれども、生き物を殺す人たちの、生き物を物としてしか考えられない人たちの心は、そういう人たちを集めます、周りに。それは、生き物を殺している人たちを幸福にする行為だと思いますか、不幸にする行為だと思いますか。

（信徒）不幸に……。

そうですね。つまり、殺生をしてはいけないよというのは、別に周りの生き物の生命を保全しなさいということだけではない。それは、それを実践する人たちを幸福にするという意味合いがあるわけだ。そして、それは優しさ、本当の意味での相手を安らがせる優しさというものを、あなた方に与えることになるだろう。これが第一の持戒。生き物を殺してはならないよという意味合いだ。つまり、生き物を殺すということは、だれを不幸にしているかというと、あなた方自体を不幸にしているんだということを理解しなければならない。

◉不偸盗――卑屈さと安定した心

持戒の第二ステージ。盗みを働いてはいけないよと。これは仏教の流派によってもいろいろあるわけだ。少しぐらいの盗みは働いてもいい。あるいは、全く盗みを働いてはいけない。これは、わたしは後者だと考えている。盗みを働くときの人の心というものは卑屈さを作ると思いますか、それとも安定を作ると思いますか。

（信徒）卑しい心を作ると思います。

そうですね。卑屈さを作る。では、卑屈になった心の働きというものは、ものをありのままに映し出すと思いますか、それとも、ものを正しくなく映し出すと思いますか。

（信徒）正しくなく映します。

そうですね。ということは、この盗みをしてはいけないよというのは、だれのために盗みをしてはいけないんですか。盗まれる人のために盗みをしてはいけないのか、それとも盗みをする人のために盗みをしてはいけないのか。どうですか。

（信徒）盗みをする人。

そうだね。盗みをする人のために盗みをしてはいけないよと。これが持戒の第二番目に来る不偸盗の戒。盗みをしてはいけないよという戒の背景にあるものです。

◉不邪淫――二つの意味合い

では次、第三番目に来る邪淫の戒はどうだろうか。快楽を貪ることは、たしかに楽しい。快楽は喜びである。快楽からわたしたちが離れることは、なかなか難しい。それはOKだ。北海道の方は、なかなか純情な方が多いから、これについての質問はパスして、少し、わたしの見解を説明しよう。

しかし、エネルギーを漏らした後と、漏らす前とでは、肉体の状態、あるいは意志の強さ、意志の状態というのは、まるっきり別になるんだね。つまり、邪淫というものは、精神を不安定にするものであって、安定させるものではない、本質的にはだよ。

ところが、現代の情報は逆のデータが入っているからね。つまり、ストレスがあるんだったら漏らしてしまった方がいいというデータが入ってるから、皆さんはそのデータに翻弄(ほんろう)されながら生きている。だから両方の――つまり真実はエネルギーを漏らすことによって、意志の力を含めて、肉体も弱っているわけだけど、もう一つの正しくないデータによって、「ああ、ストレスから解放されたんだ」

という安堵感を得る。

修行者と、それから在家の修行者とでは、この邪淫の戒の意味合いが違うんだね。もし、解脱を望む者がいたならば、決してエネルギーを漏らしてはいけない。そして、在家の修行者の場合は、まあ、エネルギーを漏らすのは仕方がない。しかし、そのときに心に卑屈さを作ってはいけないよ。例えば、愛のないセックスをしたときに、そのときに心というものは喜びに震えるだろうか、それとも空しくなるだろうか。どうですか。うん。

(信徒) 空しくなる。

空しくなりますね。だから在家の修行者は、少なくとも愛を背景としたセックスをしなさいよと。これが、在家の邪淫の戒だね。そして、出家行者の邪淫の戒は、先程言ったとおり、エネルギーを漏らすことによって、意志の力、肉体的な力が弱るわけだから、当然漏らしてはいけないよということになるわけだ。そして、この三つのカルマを、三つの修行を実践するならば、肉体的なカルマというものは、行為のカルマというものは、徐々に徐々に消滅していきますよというこ

とになるわけだね。

◉四つの口のカルマ――微細な世界への影響

口のカルマには四つあると言ったね、わたしは。嘘をつくな。必要のない言葉をしゃべるな。そして、仲たがいをさせる言葉をしゃべるな。悪口を言うなと。

この口のカルマというものはね、あなた方が生活している上において、周りがあなた方に正しい言葉を話しかけてくれる条件となる、一つは。

もう一つは、これは、ちょっと難しい話だけれども、この世というものは、この現象界、それから微細な世界、そして原因の世界という三つの世界でき上がっているわけだけれども、その微細な世界の中に入り、その微細な世界を正確に理解することのできる条件を作ってくれるわけだ。

例えばね、嘘をつくとタマスのエネルギーが――まあいきなりタマスというのは非会員の人わかるかな――この宇宙を構成している三つのエネルギーがあるわけだけれども、それはラジャスというエネルギー、ラジャス・プラーナだね。そ

してタマスというエネルギー、タマス・プラーナだね。そしてサットヴァというエネルギー、サット・プラーナだね。この三つのエネルギーから成り立っています。そして、ラジャスはわたしたちの煩悩を背景として、あるいは熱エネルギーを背景としているエネルギーであると。タマスは、一見美しく見えるけれども、愚鈍なエネルギーを背景としている。それでサットヴァは、透明な光で、それはすべてをありのままに照らす。この三つのエネルギーから構成されている。そして、わたしたちのカルマというものは、この三つのエネルギーによって、その果報を受けることができるわけだ。

◉不妄語——混沌からの脱出

で、嘘をつくということは、嘘をつく背景には、自己を美しく見せたい、あるいは自己をかばいたいという、そういう心の働きがあるわけだから、当然タマスのエネルギーが優位になる。そうすると、あなた方の周りはタマス優位の世界ができ上がる。これは混沌とした状態だから、あなた方の行為そのものが遅れる結

果を一つは招く。

はい、もう一つ。嘘をつくということはだよ、あなた方の周りに一枚、磨りガラスを入れたような状態になるわけだから、周りから見てあなた方は美しく見えるかもしれない。しかし、中に入っているあなた方は、例えば周りを正しく見ることができると思うか。どうですか。——できないね。これが嘘をつくカルマの恐怖だね。つまり嘘によって固められた人の人生というものは、物事をありのままに見ることができないから、いずれ他人の嘘によって、あるいは正しくない判断によって、人生を狂わせますよ。これが、嘘をついてはいけない戒の意味合いだ。

◉不綺語——エネルギーのロスを防ぐ

では、次に、なぜ綺語を発してはいけないか。なぜ必要のない言葉を発してはいけないか。これはよく、インドの経典を見るとだよ、聖者が何年間沈黙の行に入ったという記述があります。

わたしたちは行為によって、エネルギーをロスしているわけだね。わたしたちはしゃべることによって、エネルギーをロスしているわけだ。あるいは、わたしたちは心を動かすことによって、煩悩をかき立てることによって、エネルギーをロスしているわけだ。もし、この三つの行が停止して、そしてエネルギーを保全することができたならば、わたしたちは最もエネルギッシュな状態を作り上げることができる。

しかし、必要のない、たわいのない言葉を発し続けるがために、わたしたちはエネルギーをどんどんどんどん漏らしていく。そして、普通だったら当たり前であるはずの、正しく夢を見る、あるいは正しく未来を見る力、こういうものを失なっているんだね。

はい、では一つ質問をしよう。先程、わたしは言葉というものと、それから微細な世界――オウムではアストラル世界と言っているよね――アストラル世界というものとが密接な関係があると言った。もし、一つの言葉によって、一つの微細な世界が形成され、それが現象界に影響を与えたとしよう。その人が、例えば

だよ、絶えず必要のない話をしていたとしたならば、その人のアストラル世界は必要のあるもの、あるいは必要のないもののどちらが優位に立つか、どうだ？
そうだね。そうすると必要のないものが優位に立つということは、それは現象界に降りたとき、それは必要のあるものがあなた方の周りにそろうか、それとも必要のないものがそろうか。
（信徒）必要のないもの。
そうだね。これが綺語を発してはいけないよ、という真の意味合いだ。

◉不悪口・不両舌――恨み、反目を生まないために

じゃあ、次だ。これは簡単だね。これは小学生並みの問題だ。悪口を言われて、「ああ、わたしは悪口を言われた。気分がいい」という人は、ここにいるか。もう、これはね、現世果報として、即返ってくるね。人の悪口を言ったら、必ず悪口を言い返される。これが悪口を言ってはいけない意味合いだ。もちろんアストラル、現象界という別の意味合いもあるけれども、これは、もう悪口を言わない

というのは、あなた方も当たり前として受けとめてくれるだろう。

じゃあ、次だ。ここにあなた方の友人のAさんとBさんがいたとしよう。そして、AさんにはBさんの悪口を言い、BさんにはAさんの悪口を言ったと。「Aさんが何々と言っていましたよ」とBさんに悪口を言う。Aさんには、「Bさんが何々言ってましたよ」とAさんに悪口を言う。これをもしなしたならば、この二人は仲たがいをしてしまうだろう。しかし、もし、これが発覚したとき、それはAさんとBさんに恨まれるだろうか、それとも感謝されるだろうか。

(信徒) 恨まれます。

そうだね。これが不両舌だね。仲たがいをさせる言葉を発してはいけないよという意味合いだ。

じゃあもう一つだ。ここにAさんとBさんがいたとして、もともとは仲が良かったんだけれども、ちょっとお互いが、まだ未熟なるがゆえに、仲たがいをしてしまった。そして、例えばあなた方が、Aさんに対して、「Bさんはあなたのことをこうこうこういうふうにして誉めていましたよ」と、あるいはAさんに対して、

「Bさんはあなたをこうこうこういうふうにして誉めていましたよ」ということで、仲を取りもってあげたとしようじゃないか。このとき、いいかな、もし二人が、Aさんと B さんが、それはあなた方の力によって、自分たちは仲直りできたんだということを知ったとき、そのときあなた方に対して恨みを持つだろうか、あるいは感謝するだろうか。感謝するだろうね。これが不両舌の裏側にあるものだ。

◉心の三つの戒——貪・瞋・癡を超える

そして、貪りが多ければ多いほど、わたしたちは苦悩するだろうか。それとも貪りが多ければ多いほど、わたしたちは楽な生き方ができるだろうか。どうですか。

（信徒）苦悩する。

そうですね。これが貪りを離れなければならないゆえんです。

では、真に怒り狂うと、このときわたしたちはエネルギーを消費するか、それ

ともエネルギーを蓄えている状態であるか。どうですか。

（信徒）蓄えている状態。

怒り狂った状態がですよ、暴れ回って。

（信徒）あっ、蓄えていない。

蓄えていないでしょう。だからこれが瞋恚（しんに）という。瞋恚というのは普通のカーッとくる状態じゃないんだよ、そうやって。怒り狂うという状態なんだね。これが怒りを越えなさいよという意味合いなんだね。

じゃあ、先程の嘘と関係があるけれども、ね、これは一番初めに話した帰依と関係があるけれども、もしわたしたちがここに真理というものがあって、その真理というものを否定し、正しくないものに、一時的な結果のために帰依したとしたら、それはわたしたちの輪廻転生を、あるいはわたしたちの今後の人生を狂わせると思うか、それとも狂わせないと思うか。もう一ついきましょう。はい。

（信徒）輪廻転生を狂わせます。

そうだね。わたしたちの輪廻転生を狂わせるわけだ。

ということは、この十個の戒めというものは、わたしたちに恩恵を与えるものであって、決して害を与えるものではない。どうだ、それは。つまり、わたしたちはこの十個の戒めを実践することによって、恩恵こそ得ることができるけども、損失は何一つとしてないわけだ。

さあ、今日、この話を聴いたあなた方も、この十個の戒めの実践をやってほしい。これはオウム真理教に帰依をする、あるいはわたしに帰依をする、しないということとは関係がない。これはあなた方に大きな恩恵を与えてくれるだろう。

そして、オウム真理教の諸君は、その段階ができた次のステップとして、意志の強化、三つの意志の強化、そして三つの精進、そして十の瞑想プロセス、そして解脱というプロセスを歩いていくことになるだろう。

一九八八年五月二十九日　札幌にて

◆第三話　幸福の鍵は徳にある！

「福徳をもたらす布施と十善」

◉車の性能より行き先を

今日の講話に入りましょう。

わたしたちは、車の性能、あるいは車のよし悪しと、わたしたちの行き先とをね、混同してこの世の中を生きていると。こういう話をしても、だれもいったい何を言ってるのだろうかということが理解できないかもしれない。

ここに三台の車があると。一台は、ね、ベンツであると。一台は、センチュリーであると。一台は、例えば五五〇ccのミニカであると、軽自動車でね。この三台の車があると。そして、現代人は、どの車に乗るかを一生懸命心に念じ、その車

によってどこへ行くのかということを理解していない。わたしがここまで話したとしても、まだ理解できないかもしれない。

わたしたちは、この粗雑な世界において、六つの世界観というものを持っている。それは、地獄、餓鬼、動物、人間、阿修羅、神々であると、ね。そして、もしわたしたちが車にこだわった生き方をするならば、わたしたちは間違いなく落っこちてしまうだろうと。

それはいったいどういうことなのかと考えるならばね、例えば仙台を起点として、札幌、東京、あるいは大阪といったね、この三つの終点を考えてみようと。そうすると、わたしたちは、例えばセンチュリーによっても、あるいはベンツによっても、あるいはミニカによっても、ね、その最終地点である札幌、あるいは東京、あるいは大阪へ到着することはできる。どうかな、これは。きちんとガソリンを入れて、目的地へ向かえば到達できると思うか思わないか、どうだ。

例えば、ミニカという軽自動車に乗るからわたしたちは大阪へ行けないとか、あるいは東京へ着かないとか、あるいは札幌へは着かないとかいうことはないよ

ね。どうかな、これは。理解できますか。

◉車にとらわれず、正しい生き方を

しかし、ね、現代人であるわたしたちは、その車種を選ぶことに奔走して、目的地を忘れてしまっていると。では、このいったい車種とは何だと。

これは、現世の喜びであると。ある人はいい家に住み、ある人はいい車に乗り、ある人は、ね、人をだまし、たくさんの悪業をなして商売に成功すると。当然それによって得たものというのは、ね、今言っているとおり、大きな車、あるいは高い車にたとえることができると。しかし、その人たちは、いったい自分が、ね、得たお金をどのように使えばどのような世界へ行くかということを理解できていないと。どうかな、これは。

例えば、お金のもうけ方を教えますと。ねえ、例えば、宗教団体でもこれはやってるけどね。例えば、いい結婚の仕方を教えますと。しかし、そのお金をどのように使えば、わたしたちは、例えば高い世界へ生まれ変わると。どのように使え

ば地獄へ落ちると。あるいは、どのように使えば正しくそれは商売をしたことになると。あるいは、どのようになせば正しくない商いをしたことになると。あるいは、何が正しい職業で何が正しくない職業であるかということは、わたしたちは学ぶ機会がないよね。どうかな、これは。どうですか。

そして、他の人よりもできるだけ豊かな生活がしたいと。他の人よりできるだけ大きな家へ住みたいと。他の人よりできるだけいい車に乗りたいと。他の人より、できるだけいい品物を手に入れたいと。そう考えないかな。どうかな。そして、それによって、「ああ、あの人は立派な人である」と。「あの人は例えば立派な人ではない」という考え方が生じるんじゃないかな。どうかな。

例えば、いいかな、ここに身清く、出家した、ね、本当にボロ布をまとった修行者がいたと、ね。もちろん、この人はボロ布をまとってるわけだから、あまり徳があるわけではないと。しかし、真理を実践して、来世高い世界へ生まれ変わろうとしていると。もう一方では、先程言ったとおり、いい車に乗り、いい家に住み、社会的にも一流の立場にある人がいたと。あなた方は、どちらの方が素晴

らしい人だと考えますか。ね。

一般的には後者の方、いい車、いい家、社会的に素晴らしい地位に立っている人を素晴らしい人と考えるんではないかな。どうかな、これは。そしてそれを、わたしは先程、車だと言ったんだ。しかしだよ、その人がいったい、どの道を通ってどこへ到達しようとしているか、これは君たちにはわからないよね。どうかな。どうですか。わかりますか。わからないよね。

そして、ね、もう真理教の信徒であられる方は、実践をしてる方は、どちらの方が本当は価値があるかというのはわかるよね。どうだ。わかるよね。そして、これをわたしは、車と道のたとえであるというふうに言っているわけだ。

そして、あなた方の今生の目標、これをきちんと定め、そして、来世の目標をきちんと定めね、もしあなた方が正しく生きるならば、それはあなた方だけではなく、あなた方の周りの人にも素晴らしい恩恵があると、ね。もし車にとらわれ、正しくない生き方をするならば、あなた方だけではなく、あなた方の周りの人にも悪い影響があると。

◉十善の教え——天の世界へ

それは、いったいなぜだろうかと。真理の実践というものは、ね、身における実践、これが三つ、口における実践、これが四つ、それから心における実践、これが三つあると。いいかな。

そして、まず身における実践は、できるだけ生き物を殺さないと。そしてね、今日を境に、もしあなた方が完璧に殺生をやめ、生き物を慈しもうとする気持ちが出るならば、あなた方は間違いなく天の世界へ生まれ変わることができるだろうと、仏典ではうたわれています。

もし、あなた方が盗みをやめ、あるいは人のものを取ろうとしないで施すことだけを考えるならば、あなた方は豊かになっていくだろうと、ね。

もし、愛のないセックスをしない。あるいは、妻以外の者と、あるいは夫以外の者と性的な交わりをなさなければ、ね、あなた方の心は豊かになり、そして夫婦の仲も良くなり、子供たちも両親を信じ、ね、家庭は円満になるだろうと。

もし、あなた方が、嘘をつかず、正しい言葉だけを語り、ね、そして、言葉の

一つ一つの意味合いを絶えず意識しながら話すと。そうすることによって、あなた方の発した言葉というものは、力を持ってくるだろうと。力を持つとはどういうことかというと、あなた方の口から出たことというのは現象化するであろうと。

もし、意味のない言葉を語らず、ね、飾った言葉を語らないで、淡々と礼にかなった真実だけの言葉を語ると、ね。そうすることによって、あなた方の心は集中し、そして、周りからも尊敬されるようになると。その上に、徳の高い人がその人を引き立て、ね、そして真理に到達するスピードを速めると。

もし、ね、いかなることがあっても、相手をののしらず、そして罵倒せず、淡々と語ると。そして、言葉に怒りの念を込めなければね、周りの人から愛されるような生き方ができるようになるだろうと。

もし、自己の利益のために、あなた方の身近な人のね、仲たがいをするような言葉を使わなければ、ね、大いに周りから信用を得、そしてその徳によって地位がどんどんどんどん上昇するであろうと。

そしてね、心に貪りを持たず、布施の実践を行ない、ね、そして大いにすべて

の人の徳を誉め称える心を持つと。これを実践することによって、あなた方の物質的願望というものは、すべてかなえられるであろうと。

もし、嫌悪の感情を持たず、嫌悪から生じる怒りの感情を持たなければ、ね、すべてのものがあなた方になつき、そして天の世界へ生まれ変わるであろうと。

もし、すべてのものをあなた方がありのままに見つめ、ね、これは真実であると、これは真実ではないと、これは人を益するものであると、これは人を益するものではないということをきちんと理解し、ね、その実践を行なうならば、あなた方の智性は向上し、そして、人にだまされることもなく、すべてのことにおいてあなた方が思った方向に進んでいくだろうと。

これが、十本の正しい道であると。これを十善の教えといいます、ね。そして、あなた方がその十善の教えを実践するだけで、あなた方の心は、ね、少しずつ少しずつ静まり返り、そして徳がみなぎり、心は豊かになり、天の世界へ生まれ変わると、ね。これが道であると。

◉破滅の道——徳に応じた運転を

ところが、もしあなた方が車にこだわるならば、つまり現世的なものに、ね、無理をしてこだわるならば、そこは破滅の道であると。

では、なぜ破滅の道なのだろうかと。車というものは、今わたしが話したとおり、徳によって備わるものであると。ある人は、徳によってミニカしか備わらないと。ここでのミニカというのは、あくまでも、ね、貧しい徳の典型として聞いてほしい。ある者は、センチュリーしか備わらないと。ここでのセンチュリーというのは、ほどほどの徳のある人という意味で聞いてほしい。ある者は、ベンツが手に入ると、ね。この人は、かなりの徳のある人だと思って聞いてほしいと、ね。そうすると、徳というのは何かというと、運転技術をも意味していると考えましょう。

そうするとだ、例えばここに五五〇ccのね、ミニカがあったとしてだよ、このミニカを、ね、例えばベンツのスピードを出すような感じで一五〇キロとか二〇〇キロとか出そうとしたとしよう。この車はどうなると思うか、君たちは。どう

だ。当然、エンジンが焼き切れる、あるいは、事故を起こす確率って高くなるよね。どうかな。わかりますか。これが、徳が備わっていないのに、ね、無理をした例であると。

逆にだ、その人が無理をして、ね、ベンツを得たと、ね。しかし、技術的には本当に初心者クラスの技術であったと、ね。そして、アクセルを踏みっ放しにしたと。当然、スピードは二五〇キロと、二八〇キロといったスピードが出ていくよね。そうしたらどうなりますか。事故を起こす確率は、どうかな。大変高い。そして、もしハンドル操作を誤ったらどうなりますか。そこには死があるよね。それと同じように、ね、徳がないのに無理をして高い地位へ上った場合、わたしたちは破滅の道に追いやられるんだということを理解しなければならない。

◉三つの布施、そして十の善行を

では、わたしたちは何をなせばいいんだといったら、先程言ったね、十の善行を行なうと。そして、三つの布施を行なうと、ね。ここでは、真理教の人はよく

知っていると思うけど、まず物質、財における布施であると。二番目は、真理を流布するという布施であると。三番目は、相手に安らぎを与えるという布施であると。この三つを行なうと。そして、それよりもうワンステージ高い十の善行を行なうと。

これは、ね、もう一度簡単に触れるけど、生き物を殺さないで慈しむと。盗みをしないで施すと、ね。そして、妻や夫以外の者とは交わらないと、ね。そして、嘘をつかないと、ね。それから、意味のない言葉を発しないと。だじゃれみたいなもんだね、これは。それから、悪口を言わないと。それから、仲たがいさせるような言葉を発しないと。そして、心を貪りから解放すると。嫌悪や怒りから解放すると。そして、真理を否定しないで、ものをありのままに見つめる訓練を行なうと。そして、これをなすならば、あなた方は今日この瞬間から、素晴らしい福徳を得ることになるでしょう。

今日の話はよくわかりましたか。どうですか、みんな。そして、これはあなた方が考えても、実践すれば利益になると思われるでしょう。どうですか。例えば、

あなた方の周りの人がこれを実践していたとして、あなた方がその人を信用しますかしませんか、どうですか。そして、人間に最も大切なものというのは、信用じゃないかな。どうかな。

この逆の人がいたとするよね、例えば。まず、そういう布施とかもやらないと。それから、十悪を平気で行なっていると。ということは、あなた方が例えばその人に対して、自分の心の内側を話す気持ちになりますか。ならないよね、当然。ということは、逆にあなた方がその実践をなせば、あなた方の徳は人間だけではなくて神々にも称えられ、ね、そして、あなた方は天の世界へ生まれ変わることは間違いないわけだ。大いに実践しましょう。いいですね。

一九八九年四月十五日　仙台にて

◆第四話　これで、この世は思いのまま

「願望成就の秘訣」

◉すべての現象を作り出す功徳とエネルギー

わたしが何を言いたいかというと、今日話す内容というのは、これは自慢話ではありません。すべての現象を作り出すエネルギーはいったいどこから出てくるのかということの話をしたいわけです、わたしは。

わたしたちが実践をしなければならないもの、それは六つの極限であると。そしてその第一は三つの布施。これは法施・安心施・財施という三つの布施であると。そして最終的には、プライドの布施や、生命をも供養するという最高の布施波羅蜜、布施の極限というものがあると。

そしてこの後、持戒を守り、例えば殺生をしない、つまり生き物を殺さない、盗みをしない、そして愛のないセックスをしないという、三つの身の行ないの統御によって、わたしたちはエネルギーを漏らすことをやめ、それだけではなく生き物を慈しむ、施す、そして取り引きなしに心から愛のこもった態度で同性異性を問わず接するという実践により心を高めていくと、心を成熟させていくという身の行ない。そして、嘘、必要のない言葉、悪口、仲たがいさせる言葉といった口のカルマをやめ、慈愛のこもった言葉を語ると。そして、心には貪り・嫌悪・無智を離れると。そして真理に基づき、絶えず、透明な、そして広く大きな、深く澄み通った心を持って生きると。このようにしてなした功徳と、それとエネルギーの蓄え、これがすべての現象を作り出すんだということをいいたいわけです。

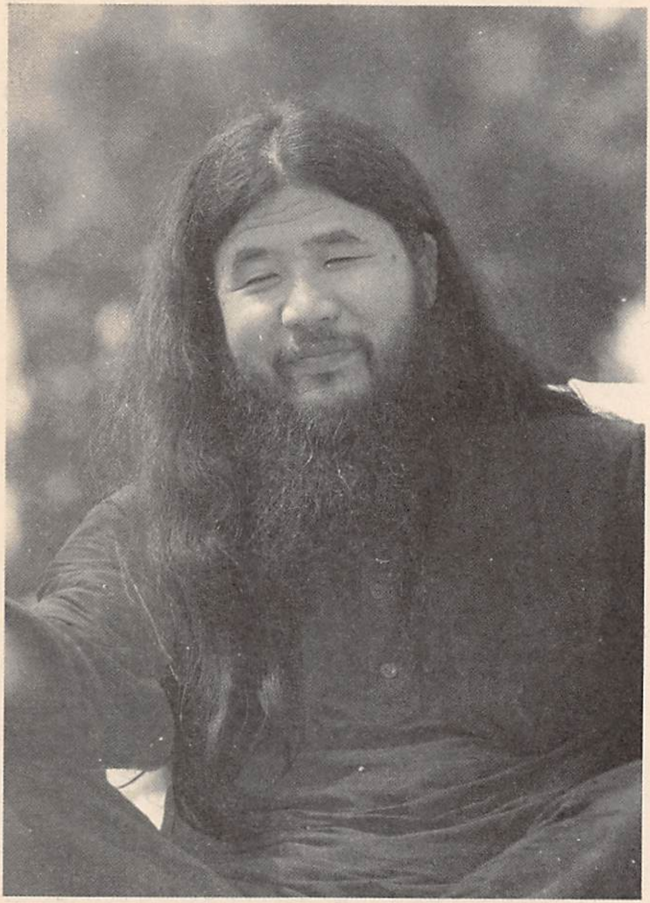
◉布施・持戒の功徳

仏典には、このように説かれています。まず、大いに布施をすると。布施をした者は、その心の向きによって、つまりベクトルの示す矢印、これによって、例

えば現世において願望を成就し、あるいは来世において人間界の中で願望を成就すると。あるいは第一天界の中で、例えば毘沙門天として、例えば持国天として願望を成就すると。

ここでいう願望成就とは何かというと、その世界においてまず健康に生きる、長く生きる、そして幸福に生きる、才能に秀でるといったような内容を表わします。

そして同じように、第二天界、三十三天において五妙欲を満足させ、幸福に生きると。あるいは夜摩天において五妙欲を満足させ、幸福に生きると。あるいは兜率天において五妙欲を満足させ、幸福に生きると。同じように楽変化天や他化自在天において五妙欲を満足させ、幸福に生きると。あるいは貪りを離れ、布施功徳を積み持戒を守ることによって、十七色天において永遠に近いほど長い間その生命を楽しむと。その享楽を楽しむと。これが布施、これが持戒の功徳であると説かれています。



◉ひたすら功徳を積め

ところがね、そうやって願望を成就する人としない人といると。それはなぜですかと。これは、二つのポイントがあると。一つは自己のなした功徳というものを、他を利するために振りまく場合。

例えばそれは、ここにいるわたしもそうですし、あるいはマハーマーヤやプンナ・マンターニプッタもその道を歩かなきゃならない。これは大乗の道です。ところが大乗の修行者というものは、徳をただ積み続け欲求を持っていないから、その人のなそうとしたことが現象化すると。それが先程言った例えば成就者を出す、あるいは信徒数を拡大する、そして救済の輪を広めるといったようなときに、これだけ大きな国家が、マスコミがオウム真理教を叩いていても平然とその教団を維持し、そして、これから大きくなるぞという印が現われると。これはまさに先程言った布施功徳、そして持戒の実践、そして救済に対する意欲といったものが現象化しているにすぎません。

もう一つのパターンは、徳が少ないのにいろんなものに欲求を持ち過ぎると。

よって心が定まらず、その徳がばらまかれた状態を表わします。

◉一つのことに集中せよ

それはどういうことかというとね、この現世においても同じであると。例えば、月に十五万貯金することのできる人がいたとして、例えばクラウンを買いたいと。クラウンは例えば四百万ぐらいとして、約二十八カ月、あるいは二十九カ月で買えるわけだよね。ところがたまる前に旅行に行ったり、あるいは本を買ったり、あるいは洋服を買ったり、等々漏らしていると、つまりばらまいていると、なかなか車が買えないと。これと同じです。

そして、仏典でも同じことをいっていると。つまり、大いに布施をすると。持戒を守ると。そして一つのことに集中すると。例えば、異性にもて、そして素晴らしい相手を見つけ、幸福な結婚をしたいと。あるいは、今病んでいる病気を治したいと。ただそれだけが自分の望みであると。あるいは、来世もっと高い位の家に生まれ変わり、幸福になりたいと。あるいは第一天界に生まれ変わりたいと。

あるいは第二天界に生まれ変わりたいと。あるいは第三、第四、第五、第六天界に生まれ変わりたいと。あるいは解脱したいと。この原動力は、すべて徳です。そしてそれが、現象化しないとするならば、それは、徳がないからであると、あるいは徳をいろんなところに使い過ぎているからであるといわざるをえません。

そして解脱を求める場合、ひたすら功徳を積み、そのエネルギーを蓄え、もちろん出家をし、そして解脱へ向かうと。これをなすならば確かにエネルギーは蓄えられ、功徳は満ち、そして一つの方向へと意識は向かい、解脱するでしょうと。だからね、サマナの功徳というものは広大なんだというふうに仏典では言われているわけです。

◉四預流支の実践――布施・持戒の成就に向けて

ところで、皆さんは徳を成就するためには、あるいは持戒を成就するためには、何をなしたらいいのかということになると。それは、四つの預流支の実践であると。つまり、心を一つの方向に絞り込んでいく修行、三悪趣に生まれ変わらない

で上の世界へ生まれ変わり、そして、自己の思うがままにこの人生を謳歌し、死んでいくためには四つの預流支しかないんだということ。

この四つの預流支というのは、皆さんも知ってのとおり、まずシヴァ大神、仏陀、グルというものを一つと見、すべては真理の体現であると見、それに対して帰依をすること。ここでいう帰依とは、その教えを学び、布施や奉仕の実践をするということだね。

第二は、その教えに対して、絶対的な真理に対して帰依をするということ。

第三は、その教えを実践している者に対して帰依をするということ。つまりサンガに対して、奉仕・布施の実践を行なうということ。ここでサンガというとちょっと、聞きづらいかもしれないけれども、教団という言い方をしたら、あるいは支部活動という言い方をしたらわかりやすいと思います。

これが第一の預流支であると。

そして第二の預流支は、何度も何度も教学をするということ。例えば説法テープを五回、十回、十五回と聞くと。『マハーヤーナ』を五回、十回、十五回と読

むと。これが第二の預流支であると。

そして第三の預流支は、その読んだデータをもとに、自己の間違った観念を崩壊させると。つまり思索をすると。これが第三の預流支であると。そして第四の預流支は、その得た考えを実践すると。これは当然、社会とまみえない考え方もあるし、あるいは社会に合致する考え方もあるでしょうと。

この四つの実践を繰り返し繰り返し行なうことによって、その人の身体、心、言葉、この三つは成熟し、そして、すべての願望がかなうだけのエネルギーを有するようになります。これが四つの預流支であると。

じゃ、その四つの預流支はどこへ向かうんだと。先程も言った、それは六つの極限であると。つまり、財施・法施・安心施といった三つの功徳を積むと。そして、不殺生・不偸盗・不邪淫・不妄語・不綺語・不悪口・不両舌・不慳貪(けんどん)・不瞋恚・不邪見といった十善を実践し、エネルギーの漏れをなくし、身・口・意の統御をはかると。

◉叡智へと到達する六つのステージ

そして第三のステージにおいて、大いにカルマを落とされると。ここで問題は、よくこういう質問を受けると。オウム真理教に入信したのに、何で悪いことが起きるんだと。ちょっと待ちなさいよと。あなたはだって入信して、まだ一年にしかならないじゃないかと。これまで生きてきた三十年間の間に、どれほどの悪業を積みましたかと。そこで智慧ある信徒はハッと気づくと。智慧のない信徒はそこでも気づかず不満を持つと。ね。

つまり今生三十年間、そして前世の長きにわたる大いなる悪業というものは止滅されなければならない。それは必ず現象化し、止滅します。これが第三のステージ、カルマ落としのプロセスです。

例えばプンナ・マンターニプッタ正悟師の場合も、大いに功徳があり、戒律を守っていたから、そして瞑想修行を行なっていたから、カルマの出やすい状態であったと。そして出家する前、あるいは前生においてのカルマが顕現化し、一気にそのカルマが落とされてマハー・ムドラーの成就をしたと。

この三つの実践をした後、第四の実践である、今なしている功徳、今なしている善行を増大させると。今はまだ徳がなくてできないけど未来にできるだろう徳について絶えず夢を見、考えると。今なしている悪業をただちにやめると。そして未来において生じるかもしれない悪業に対して、注意深くそれが生起しないようにすると。これが第四の、精進の徹底です。

そして第五番目。これらの清らかになった身・口・意の三つによって、この欲界・色界・無色界という三つのバルドーを止と観という、つまり心の本性、真我と、それからグナの状態という形で眺め、すべてを知り、そして、叡智へと到達すると。これが在家信徒の到達する、六つの極限であると。六つの修行であると。

◉ただ一つの道を歩め

ここに法は存在している。それを実践するかどうかは、皆さん次第であると。どんなに素晴らしい教えがあったとしても、それを実践するものがなければ、何の価値もない。それは例えば、ここに乗り心地のいい、ものすごくスピードの出

る車があったとしても、その車にキーを入れ、ガソリンを入れ、エンジンをかけ、そして、その車の最適条件で運転をしなければ、その車が意味がないのと同じであると。そしてこの道は――人は必ず、絶対死ぬと――その死を超越する一つの道であると。

わたしがなぜここで一つの道と言っているかというと、これは説法祭のときのね、正月の。聞いた人はわかると思うけど、六つの極限と八正道は同じであると。その八支の道の実践によっても同じ点へと到達するからであると。

今日この法を聞き、そして皆さんが現世において楽々と生き、解脱せられんことを願い、今日の講話を終わりたいと思います。

一九九一年一月二十日　大阪にて

◆第五話　現世的幸福から解脱・悟りへ

「布施、持戒、そして六つの極限」

◇八八年一月二十九日

◉最高の幸福——真理との出会い

今日は、あなた方にね、まずあなた方がいかに幸運な人生の持ち主であるか、そして、修行するということにおいて、いかにね、恵まれたカルマの持ち主であるかということについて話したいと考えています。

あなた方が、ヒナヤーナの修行者であれ、あるいはマハーヤーナの修行者であれ、あるいは稀な最高のカルマの持ち主であるタントラヤーナの修行者であれ、ね、あるいはヨーガ系統の修行者であれ、いずれにしろ真理の探求ができるとい

うことは素晴らしいことだ。そして、そのチャンスというものは、わたしは無限大分の一に等しいくらいのね、稀なチャンスだと考えている。

仏典ではね、こう書かれているんだ。まず、わたしたちがこの人間界に生まれ変わる、その条件というものはね、地獄の世界というものがあって、その地獄の世界というものを、夜見える星の数だと考えたならば、昼間に見える星の数が餓鬼の世界であると。そして、同じように夜見える星の数を餓鬼の世界だと考えたならば、動物の世界というものは昼間に見える星の数であると、ね。そして、夜見える星の数を動物の世界だと考えたならば、人間の世界というものは昼間に見える星の数であると、ね。

これはどんどんどんどんどんどん行って神々の世界に至るわけだけども、修行できる、本当の意味でエンライトメント（解脱）、あるいはサルベーション（救済）できる修行の場っていうのは人間界が最もよろしいということになってるわけだね。

もちろん、人間界の上には阿修羅の世界、あるいは天界という世界があるわけだけども、なぜ天界に住む神々、あるいは阿修羅に住む魂より、人間の世界の魂

の方が修行に向いているかというとね、それは人間の世界というものはある程度楽しみもある、ある程度苦もあるという状態で、要するに苦と楽の比較っていうものがしやすい状態なんだね、ちょうど。

徳という点からいったら、阿修羅、それから天界の方が上だ。そしてね、阿修羅の魂というものはすごく真面目な魂で、日々努力はしているわけだけども、その努力の目的が、神々を超越したいと、天界を超越したいための嫉妬心から出ている努力なんだよ。だから報いられるとしても、結果としていろんな形が出てくるとしても、心の状態というのは絶えず殺伐としてるわけだね。

じゃあ、神々はどうかというと、膨大なる功徳によって満足できる状態にいるわけだ、この現象界で。だから、別にこの現象界を捨てて、現象界を乗り越えてアストラルやコーザルのニルヴァーナに入ろうという気持ちにならないわけだね。

そこへいくと、先程言ったとおり人間の世界というのは適当に苦があり、適当に楽があるから、高い世界からいったん落っこちて人間の世界に入った魂は、当然より高い世界へバックしようとする。そして、わたしたちの無意識の意識とい

うものは、その繰り返し、功徳を積めば上昇する、悪業を積めば落下するという繰り返しを知っているから、天界へ行ってもしょうがないと、それよりももっと自由で壊れない世界へ行きたいと考えるわけだ。そこから本当の意味での修行が始まるわけだ。

またね、仏典ではエンライトメントの確率について、こういう表現を使っている。一匹の盲目の亀がいると。この盲目の亀は海底に普段は生活していると。そして、その盲目の亀は数百年に一回、海上に上がり呼吸をして、また海底に沈む。ちょうどそのときにね、その海上を牛のくびきがね——まあ牛のくびきでなくてもいいよ、輪っかでもいい——とにかく輪っかが自然に流れてくると、ね。そして、その数百年に一回、盲目の亀が海上に上がり、そのときに輪っかに偶然に入る確率と、成就する確率は一緒であるというふうにいっているんだね。

そして、その盲目の亀の意味合いというものは何かというと、わたしたちが、さあ真理に向かって修行しようじゃないかと考える心の働き、これが数百年に一回なんだよ。そして、そのときに真理にね、巡り合える確率、それが海上を流れ

てくる輪っかだといってるわけだ。で、この海全体は何かというと、六道を輪廻している生き物たちなんだよ。それから考えてもわかるとおり、わたしたちが真理に巡り合い、解脱する確率なんていうものは本当に無限大分の一なんだね。そして、今あなたたちはね、数百年に一回の真理とのぶつかり合いに直面しているわけだ。

◉イニシエーション——精神と霊性の浄化

では、なぜ今からあなた方がなす修行というものがね、真理だといえるか。それはまずだれもが通る霊的なプロセスというものがある。それから、心のプロセスというものがある。それを、オウムは証明しているということが大切な要素となろう。それはいずれあなた方も経験するだろう。それからね、もう一つ、真理というものは純粋であると。真理というものは透明であると、ね。透明ということは何を意味してるかというと、例えばあなた方の持っている現象界におけるカルマ、それからアストラルにおけるカルマ、それからコーザルにおけるカルマが

あるわけだけども、この三つのカルマというものを浄化し切った状態、これが透明であるというわけだ。で、この二つの要素をオウムは備えていると。そして、エネルギー移入が行なわれることによって、あなた方も純粋になり、透明になっていって最終的にはエンライトするわけだ。

現代人はね、大変忙しい。そして、その結果として時間がない、ね。だから、この現代の条件を備えながら、高い世界に入るためには、ね、自分一人で修行しながら心を純粋にしたり、あるいは透明にしたりするということはほとんど不可能に近いとわたしは考えている。

無始の過去から霊的に浄化していくためには、あるいは精神的に、ね、ステージを上げていくためにはグルというものがいて、そのグルがね、あなた方にね、日本語でいうならば潅頂（かんじょう）、英語でいうならばイニシエーションを行なうわけだ。そのイニシエーションの種類というものが三種類あって、この三つのイニシエーションのできるグル、あるいは宗教こそ最高だといわれている。

その三つのイニシエーションというのは、一つは、あなた方に対して秘儀とい

われている瞑想技術を、あるいは戒をね、口頭で伝授するというやり方。それから第二番目には、ね、シャクティーパットを含む、アストラル、イメージの浄化を行なうやり方。そして、第三段階にはね、あなた方のコーザル・レベルの心をチェンジさせるというやり方と、この三つをいいます。

そして、経典では、このイニシエーションを受けない限り、真の世界への到達はないといっているんだ。わたしはね、特に時間の少ない、時間のない現代人が、しかも正しくない情報の中にいる現代人が、最終の心の純粋な状態、あるいは心のクリアな状態に至るためにはね、イニシエーションは欠くべからざる要素だと考えている。

◉四つのタントラ、六つの極限

では、具体的にだ、わたしたちの持っている、この現象界のカルマ、そしてアストラル世界のカルマ、そしてコーザル世界のカルマをどのようにグルは浄化するかという点に、次は話が絞られてくるわけだ。ここで出てくるのがね、まず六

つの極限という修行システムが出てくるわけだね。ある人は、いきなりコーザルを変えてしまったならば、アストラル、あるいはこの現象界のカルマが変えられるんじゃないかと、ね――ここでいう現象界のカルマというのは行為だ、アクションだね――といっているが、それはあり得ない。もしそれができるんだったら、とっくの昔にね、みんなマハー・ニルヴァーナに到達しているよ。だからわたしたちがアプローチできるのはね、この現象界、そしてアストラル世界、コーザル世界の順番にしか無理なんだということなんだね。

密儀仏教ではこれをね、四つのタントラに当てはめているんだよ、ね。そして六つの極限を当てはめているんだよ、ね。四つのタントラというのは何かというと、所作タントラ、所作というものは行為をまず清めようと。そして、行タントラ、儀式によって具体的に、いいイメージを入れていこうではないかと。そして、ヨーガタントラ、これによってイメージを浄化し、最後にアヌッタラ・ヨーガタントラ、これによってコーザルの浄化をすると、これら四つをいいます。

六つの極限でいうならば、まず、三つの布施、それから五つの持戒によって、

この現象界、行為を浄化する。そして、意志（忍辱）の極限によって、あるいは精進の極限によってアストラル世界を浄化する。そして、禅定、智慧というね、最後の極限によってアストラル世界からコーザル世界を浄化し尽くすと、こういうふうなプロセスで浄化するのがベストであると考えているわけだ。

じゃあ、例えば六つの極限について、簡単に説明するならば、第一ステージの三つの布施というものは何かというとね、まず物質的な布施。そして、次に相手に安らぎを与える布施。そして、真理を、伝達する布施という三つの布施があるわけだ。

そして、戒というものはね、これはちょっとアメリカ人の人には大変かなと感じるんだけども、まず虫に至るまで殺してはいけない、ね。盗んではいけない。そして、愛のないセックスをしてはいけない。それから、嘘をついてはいけない。この嘘をついてはいけないというのは、沈黙もいけないわけだね。嘘について沈黙するということもいけない。そして、酒を飲んでもいけない。これが、第一ステージの布施、第二ステージの持戒なんだね。

◉三つの布施――財施、安心施、法施

で、第一ステージの布施について詳しく説明するならば、まず財施というものは何かというと、真理に対する布施、これがベストであると。この真理に対する布施というのはね、言い方を換えれば、「真理の体現者と、それに集う者と、真理」の三つに対する布施と、もっと詳しく言うことができる。この布施は来世において、あるいは今生において、あなた方がいかなる形で困ろうとも援助されるであろうという布施なんだね。

次の財施は、食べられない人に対する布施だね。これは本当に仕事をしたくても仕事がなくて、そして、食物がなくて食べられない人に対する布施。これは、あなた方が今生において、あるいは来世において、もし食べられないことがあったならば、必ずそういう物質的な布施があるだろうという結果を招く。そして、一番役に立たないのが、例えば社会的な財施だね。例えば学校に対する布施とか、ね、これはあなた方がそういう学校とか組織を作ったときに、その恩恵は返ってくるだろうという布施だ。

次に、ね、安らぎを与える布施というものがあって、これも三つのランクに分かれる。あなた方が最も苦しんでいるときに、もしだよ、他人に対して安らぎを与えることができたならば、今生、あるいは来世において、あなた方が本当に苦しんでいるときに、他のだれかがあなた方に安らぎを与える。そして次に、あなた方が、あまり苦しんでいないとき、普通の状態のときに、他人に精神的に安らぎを与えたならば、同じように、あなた方が苦しんでいるときには安らぎを得られないけども、平静なときに、他人があなた方に安らぎを与えるだろう。そして、最も効果がないのが、あなた方が楽しいときに、相手に安らぎを与えた場合、これはあなた方が楽しいときに、楽しみと同時に安らぎを得るという結果が出てくる。

布施の最後、法施。この法施っていうのは何かというと、法というのはつまり観念という意味だね。この観念を、例えばだよ、もしあなた方が真理という観念を周りに布施したならば、布教したならば、今生、あるいは未来際において、必ずやだれかがあなた方が困っているときに、真理というものを、あなた方に教え

ようとしてくれるだろう。そして、真理でもないけどもそれほど害のない観念というものを他人に吹き込んだならば、同じように未来際において同じ結果が出てくるだろう。そして、正しくない観念、あるいは正しくない宗教というものを、あなた方が周りにもし吹き込んだならば、同じように、ね、今生において、あるいは来世において、正しくない宗教、あるいは正しくない観念というものを周りから吹き込まれるだろう。

そして、この三つの布施は、物質の布施はまずグロス・ワールド（現象界）に影響すると。次に、ね、安らぎを与える布施がアストラル・ワールド（アストラル世界）に影響すると。そして、最後にこの観念的な布施がコーザル・ワールド（コーザル世界）にね、影響するわけだ。そして、このベースがね、しっかりできた段階で、次に五つの戒に入っていくわけだね。

◉不殺生――怒りと冷淡さの証明

で、この五つの戒というのもね、深い意味合いがあるわけだ。例えば、ね、殺

すなかれという戒がある。生き物をたくさん殺すという背景には、自己保存の法則というものが働いている。そして、怒りのカルマというものが働いている。この自己保存の法則の裏側にある怒りのカルマというものは、これは炎だ、ね。精神的な炎を使って、現象界として、現実として殺生したならば、そのカルマはあなた方を同じようにね、その炎はあなた方を同じように地獄の世界で焼き尽くすだろうと。これが、殺生のカルマです。

そして、もしあなた方が生き物を慈しんだならば、殺さないで慈しんだならば、ね、逆にあなた方が今生において、あるいは未来際において、同じように周りの生き物から慈しまれるであろうと。こういうふうにスクリプチュア（経典）ではね、第一の戒について説いてるわけだ。

いや、そうではないという人がいるかもしれない。怒りではなくて冷淡な気持ちで、殺生をするんだという人もいるかもしれない。そのとおりだ。もちろん心の働きにはそういう要素もあるわけだ、ね。そして、その魂は同じように、やはり地獄の世界に落ちる。その地獄の世界のどのパートに落ちるかというと、極寒

の地獄だ。もうそこは、その寒さのために皮が破れ、やけどと同じように水ぶくれになるというような地獄です。そういうふうに経典ではいってるわけだね。まあこれは経典でいっているだけではなくて、わたしも実際に地獄の世界というものを見てきています。

◉カルマ——三つの世界に現われるデータ

で、同じように四つの戒、盗むなかれ、愛のないセックスをするなかれ、嘘をつくなかれ、あるいは酒を飲むなかれとあるわけだけども、今日はね、あまり時間がないから、一応殺生で切るよ、一回。そしてね、アメリカの人というものはすごく論理的だから、なぜなしたカルマが返ってくるかということについてね、ちょっと話を移そうと考えています。あと四つの原因と結果については明日話すことにして。いいですか。

まず、わたしたちが思いを発したこと、あるいはイメージ、あるいは行為というものは、すべてコーザル世界にあるデータ・バンクに、そのデータが収集され

るわけだ。その順番というものは、現象界からアストラルの世界を通ってコーザルの世界へ行くと、ね。つまり、三面の透明な水があると考えよう、水がね。そして、行為というものは波なんだよ、波。わかるかな。例えば、殺生をしたとか、あるいはお布施をしたというと、そこに一つの波ができるんだ、波が。そうすると、ここに水面があって、これを波立たせると必ず、高い部分と低い部分が出てくると、ね。いいですか。そうすると、例えば行為したことは必ず高いパートを作り上げるんだよ。そして、結果というものはその反動で、低いパートのデータが降りてくるわけだ。そして、この現象界に現われる。あるいは、アストラル世界、コーザル世界に現われるわけだね。よろしいですか。

◇八八年一月三十日

●偸盗から離れよ――つくられる心の豊かさ

さあ、それでは昨日の続きから始めよう。昨日は、わたしたちが修行する上においで、まずなさなければならないこと、これが三つの布施であると。そして、

次にやらなければならないことが、五つの戒めを守らなければならないという話だったね。そして、五つの戒めの中で、殺生の説明まで終わったんだよね。

昨日も説明したと思うけども、アストラルやコーザルの、データの入れ方は波だったよね。そして、まあ正確な言い方をするとアストラルは波であると、コーザルは反射であると。そして、そのプラス・マイナスのデータの差し引きがちょうど一定しているという話だったよね。

例えば、功徳を積めば波は高くなると。そして、悪業をなせば波は低くなると。例えば、もし楽しみというものが高い波だとするならば、その反動で必ず低い波が起きると。これは何かというと、普段、何もなさない状態、行為をしない状態というものはプレーンだということだよね。

で、その理論で、次の不偸盗、盗んではいけないよということ、そして、その延長上にある、物を施しなさいということについて、考えなければならないと思うわけだけども、もともと盗みというものは、執着から来ている。もし、わたしたちがいっさいのものに対して執着していなかったならば、盗む必要はない。

そして、盗んだならば必ず盗まれる。いや、そんなことはないと考えるかもしれない。それはそれでOKだ。盗まれないとしても、少なくとも物質的には恵まれない状態が出てくることはわかるよね。それは、どういうことかというと、盗みをなした。これは、そのとき一時的に物質的には何かを得るわけだ。何かを得るということは、波としては高くなるよね、当然。その反動で必ず、低い波が訪れると。そのとき、物質的欠乏が訪れるということになるよね。

だから、今度は逆にね、物を施したならば、そのときは低いポジションの波が起きるよね。その反動で今度は高いポジションの波が生じるよね。このときに物質的に豊かになるよね。

でね、問題なのはここだ。じゃあ、盗みをなしたときに、ハイ・ポジションになり、それから、次はロー・ポジションになると。このときは物質的に豊かではない。逆に、お布施をしたときに、例えばロー・ポジションになると。そして、その後ハイ・ポジションになると。これは同じではないかと考えるかもしれないけど、この二つには大きな違いがあるわけだね。その違いとは何かというと、心



第一部　人生を幸福に生きたいあなたのために

だね。

同じように、一方が豊か、一方が貧しいと。一方が貧しい、一方が豊かな状態に現象的にはなるわけだけども、心の働きはどうだろうか。いいことをなしたとき、人の心というものは、ね、うれしくなる。悪いことをなしたとき、人の心というものは暗くなる。つまり、たとえ条件としては、物質的には同じだとしても、心は違うわけだね。そしてわたしたちには意志、意識、それからこの現象界の幸福、つまり意志、意識の奥にある魂の幸福と、三つあるわけだけど、このグロス・ワールドの、現象界の、例えば物質的なものが同じだとしても、意志、意識の存在しているアストラル・ワールド、あるいはコーザル・ワールドの魂の状態はこの二つ、ね、この二つというのは、盗みをなしたときの豊かさ、あるいはお布施をして、その後返ってくる豊かさというものはね、違うわけだ。そうすると、コーザル、アストラル、現象界という、三つを足し合わせたときに、どちらが幸福といえるだろうか。そうすると、この持戒の二番目、盗むなかれと、その延長上にある施しなさいという意味がよくわかると思う。

◉邪淫を離れよ――結節を破るエネルギー

じゃあ次は、邪淫するなかれと。邪淫するなかれということは、愛のないセックスをしてはいけないと。あるいは、エンライトメントするために、サルベーションするために、精を漏らしてはいけないという戒です。これについてはどういう理由が考えられるだろうか。

まず、セックスのときに使うエネルギーというものは、水元素のエネルギーを使ってるわけだね。これはチァクラとしては、スヴァディスターナ・チァクラを使っている。そして、このチァクラを使い過ぎると、体質的にはまず、粘液体質になる。そして精を漏らすならば、わたしたちの精液というものはクンダリニー・ヨーガのエネルギー源だから、いくら修行しても体が熱くならない。いくら修行しても、爆発的なエネルギーが上昇しないという結果を招くわけだね。

それはね、ここの枠にかかっているシヴァ神とパールヴァティー女神の結合の絵、これはチベット仏教では、グヤサマジャといってるわけだけども、この中にある、三つの顔の中の白い顔は、つまり無智、曖昧さと関係しているわけです。

このグヤサマジャが、このシヴァ神が、なぜ三つの顔を持っているかというと、そのエネルギーを使って、成就していますよということを表わしているわけだよ。ところが、このエネルギーがもしなければ、なければということは、あなた方が浪費していれば、こういう状態にはなりませんよという意味でもあるわけだね。

もちろん、禁欲をするとね、精を漏らさないと、イライラしたり、あるいは、少し気が短くなったりする。ところが、エンライトメントするためには、そのエネルギーを上昇させて、例えばマニプーラの裏側にあるブラフマンの結節だとか、アナハタ・チァクラの裏側にあるヴィシュヌの結節だとか、アージュニァー・チァクラの裏側にある、シヴァの結節だとかを破らなければならないわけだ。言い方を換えるならば、強力なエネルギーがない限り、その結節を破ることはできないんだよね。

だから、成就するためには、強靭なる精力が必要であると。まあ言い方を換えるならば、強靭なる精力の持ち主は、少しくらいは精を漏らしてもいいけども、精力のない人は、精を漏らさないようにして蓄えて、そのエネルギーを爆発させ

て、サルベーションやエンライトメントが起きるんだよということを経典ではいっているわけだ。

◉愛を背景として——幸福を得るために

サルベーションや、エンライトメントを考えていない人は、セックスについてはどう考えたらいいかという問題が出てくる。これは簡単だね。愛のないセックスをしてはいけないということです。

じゃあ、なぜ愛のないセックスをしてはいけないのか。心の働きをちょっと見てみようじゃないか。もし、わたしたちが愛のないセックスをするとね、快楽だけのために心は働きだす。そうすると、例えばわたしたちが他に対して、異性に対して快楽だけの見方しかできないとしたならば、先程の波の理論を考えてごらん。返ってくる現象は、快楽だけのために異性もわたしたちを見るようになる。そうすると、どういう結果が出てくるかと、ね。男性と女性のつき合いというものは、セックスだけでない。例えば、男性が女性を愛するというのは、男性にな

いパートがあるから愛するんだ。あるいは、女性が男性を愛するのは、女性にないパートを男性が持っているから愛するんだと一般的にいわれているよね。ところが、それが単に快楽だけのためのつながりだとしたならば、それは殺伐とした関係となろう。殺伐とした付き合いだとしたならば、それはわたしたちに幸福を与えるくれないよね、この現象界において。

いいね。だから、この三番目の邪淫するなかれというのは、ね、エンライトメントやサルベーションを目指している者は、できるだけ禁欲をしなさいと。そして、そうではなくて現世的な幸福を求めている人は、愛のないセックスをしてはいけないよという理論になるわけだ。

◉嘘をつくなかれ――タマスからの解放

じゃあ、次に嘘をつくなかれという戒はどうだろうか。嘘をついてはいけない。これはね、この大宇宙を動かしている、エネルギーが三つあるとヨーガでは説いているんだ。これは仏教も同じだ。その三つのエネルギーというのは、ここにあ

るグヤサマジャにも表われているように、スカイブルーがサットヴァ、サット・プラーナと。そして、白がタマス・プラーナだね。そして、赤がラジャス・プラーナといわれている。で、これは中心、スカイブルーが執着を表わし、この左側、白が無智、曖昧さを表わし、右側の赤が怒りを表わすといわれている。

そしてね、嘘をつくと、この白のタマスのエネルギーね、タマス・プラーナのエネルギーがわたしたちを取り巻くんだね。もし、そのタマスのエネルギーがわたしたちを取り巻いたならば、周りから自分を防御することはできる。防御というか、要するに見えなくすることはできる。この三つのエネルギーはラジャス、タマス、そしてサットヴァと順番に次元が高くなっていくわけだけども、嘘をつくとね、タマス優位の世界が訪れるわけだね。タマスで覆い隠しているから、周りから見ると、あの人はいい人だといわれる。そういう自分と他人との関係が成り立つよね。

ところが、このタマスのエネルギーで覆い隠されるとね、自分自身も相手を見ることができないわけだよ、正確に。これは言い方を換えるならば、先程の波の

関係と同じっていうこともできるよね。だましたら、だまされると。よって、嘘をつくなかれの背景にあるものは、タマスのエネルギーを撤退させるために、つまり、物事をクリアに見るために嘘をついてはいけないよと、経典ではいってい るわけだ。そして、もう一つ付け加えるならば、嘘をつかない実践をするならば、あなた方が口に出したこと、あるいは思ったこと、これがね、ほとんど完璧に現実に現われるということになるだろう。

◉不飲酒の実践――意志、意識のコントロール

さあ、最後に、酒を飲むなかれだね。この理論はいたって簡単だ。お酒を飲み過ぎると、意志、あるいは意識が混沌とする。あるいは自分の思った方向に、意志や意識が働かなくなるというわけだね。ヨーガや仏教の根本的な狙いというものは、自分の意志や意識というものを魂のコントロール下に置くことです。そして、それらを管理して、この世で思いのままになる、あるいはアストラル世界で、アストラル・ボディーが思いのままと、コーザル世界で、コーザル・ボディーが

思いのままになると、そういったことが狙いなわけだ。

ところが、アルコールを入れると、このアストラル世界における意志、意識というものが操縦不能になってくるんだね。そうすると、ヨーガの目的と反するわけだ。だから、できるならば酒はほどほどにしなければならない。飲まないでいいんだったら、飲むべきではないという理論がここに成り立つわけだね。

◇八八年一月三十一日

◉意志の極限——エネルギーをコントロールするために

さあ、今日の説法で最後になるわけだけども、昨日までは、まず布施、それから持戒について話したよね。今日は、意志の強化がわたしたちの人生にとってどのような働きをするか、それから、修行に対してどのような効果があるかについて話してみたいと考えている。

わたしたちは、布施によって素晴らしい功徳を積む。その素晴らしい功徳は、まず物質的な布施によって、このグロス・ワールドを浄化し、それから、安らぎ

の布施によってアストラル・ワールドを浄化し、それから、法施によってコーザル・ワールドを浄化する。そして、五つの戒めを守ることによって、ね、悪業を積まないようにするならば、わたしたちは少しずつ少しずつ純粋になってくるわけだね。そして、エネルギーが蓄えられると、ね。

で、まず現象界でエネルギーが満ちあふれ、次にアストラル世界にエネルギーが満ちあふれてくるわけだけども、その満ちあふれてきたエネルギーを、わたしたちがもし意志の力なしに放っておいたならば、単に、変化身が夢の世界、この世ではないアストラルの世界で、楽しい思いをするにすぎないわけだ。

ところが、この第三ステージの意志の訓練をなすことによってだ――意志というものはアストラル世界に存在しているわけだけども――その訓練をなすことによって、今まで蓄えてきた善業のエネルギーが一定方向に進むようになってくるわけだね。そして、この意志の極限というものは、わたしたちが功徳を還元して喜びとして返ってくるプロセスをまずシャットアウトする。そして、ただひたすら積み上げた功徳というものを、あなた方の修行の目的である、サルベーション、

あるいはエンライトメントという方向に一気に放出する準備をするわけだ。

もちろん、わたしはサルベーションしなくてもいいと、あるいはエンライトメントしなくてもいいと考えている人は、例えばだよ、その意志の力を今生の人生の目標に使ったらならばどうなるかというと、もちろん、それは結果として、この現象界に速やかに現われ出るだろう。

なぜ、そう言い切れるかというと、ここに一つのタイヤを考えよう。針で刺したくらいではパンクはしないようなね、厚いものを考えると。で、パンパンにそれは張っていると、ね。このタイヤに一つの穴を空けた場合と、たくさんの穴を空けた場合とでは、エネルギーの流れはどうなるか。たくさんの穴を空けるというのは、いろいろなわたしたちの欲求だね。一つの穴というのは、例えば人生の目標を一つに絞った場合の、今比喩として使っている。そうすると、空気の流れというものは、当然一つしか穴がなければ、その方向に向かって、蓄えられた空気、つまりわたしたちの善業は一気に流れ出るわけだ。ところが、空気の出口がたくさんあると、エネルギーはいろんな方向に分散され、圧力の軽減は速まる。

そして、エネルギーの流れも弱くなるわけだね。

何が言いたいかというと、この意志の極限というものは、エネルギーを一定方向に持って行くための訓練なんだ。そして、欲求をシャットアウトするための訓練なんだ。欲求というのは空気穴だったね。で、これが完成したならば、わたしたちは自分が積み上げてきた功徳というものを、自分の意志する方向に流すことができるようになる。意志する方向に流すということは、この現象界において、ある程度のことは思いのままになるというわけだ。

◉意志の強化の実践――現象界に現われる結果

では、どのようにしたら意志の強化ができるんだと。これは、そんなに難しいことではないんだよ。これはね、あなた方が得になろうと、あるいは損になろうとね、まず心に思い、そしてイメージし、口に出したことを確実に実行するという訓練をすることです。

例えば一つの仕事があると。この仕事を、わたしは三日間でやり上げようと口

に出したならば、ね、たとえ徹夜をしても三日間でやり上げると。どんなことがあっても三日間で一つの形を作り上げると。例えば、この事業に十万ドル投資しようと考えたならば、十万ドルを必ず投資すると。それが、例えば途中でだよ、あっ、これは失敗するんじゃないかと思ったとしてもやるわけだ。例えば、修行を一日三時間、必ずやると決めたならば、どんなことがあっても三時間行なうと。それは、寝ないでも行なうと。この訓練を毎日毎日続けていったならば、そうだね、一年くらいかかるかもしれないけども、確実に意志は強化されているだろうね。

では、その意志の強化の結果として、何が起きるかというと、あなた方が思ったことが、即、現象界で実現するという形が起きてくるわけだ。これが、一月、二月、三月とね、訓練を続けているうちに、必ず結果が出てくる。初めのうちは、自己の行為も意志のコントロール下には一割とか二割とか三割しか置けないかもしれない。あなた方が、例えば現象を三割、意志のコントロール下に置いたとしたならばね、その三割はあなた方が意志したとおりに動くということになる。

同じように五割、あなた方が自分で決めたことを実践できるとしたならば、この現象界でも五割、あなた方の意志したことが現われる。そして、最後に十割、あなた方が意志のコントロール下にあなた方の行為というものを置いたならば、十割、この現象界に結果が現われるということになるんだよ。

◉精進――ポイントとなる帰依

そして、サルベーション、エンライトメントを求めている者は、次の精進のプロセスに入っていくわけだ。精進とは何かというと、修行に専念すると。つまり、ベースに膨大な功徳を積み、次に悪業を積まない条件を作っていき、その蓄えたエネルギーを意志の力によって一定方向に使う訓練をなすと。そして、その意志がだよ、さあ、わたしは解脱しようと、わたしは悟りを開こうという方向にすべてのエネルギーを注ぎ込んだとき、精進のプロセスが始まるんだ。

この四番目に来る精進で、最もポイントとなるものは何かというと、グルに対して、あるいはシヴァ神に対してね、帰依ができているか、そして、グルやシヴァ

神の意思というものを、自分の意思と置き換えられるかということがポイントとなるわけだ。なぜ、意志の強化のところで、自分のコントロール下においた意志の働きをだよ、グルやシヴァ神にオーバーラップしなければならないかというと、例えばわたし、例えばシヴァ神の世界にあなた方は没入していかなければならないわけだ。そうすると、そのベクトルの向かう方向を、わたしや、あるいはシヴァ神の方向に向けるのが最も手っ取り早い方法なんだよね。

で、この精進の実践では、もう修行に関すること以外やらないわけだ。修行に関すること以外やらないということはどういうことかというと、例えばシッシャ（出家修行者）になると。そして、グルの意思、シヴァ神の意思というものを具体的に表現していくプロセスに入るわけだ。そして、その意志の働きが、二十四時間、グルに、あるいはシヴァ神にオーバーラップした段階で、瞑想修行に入っていくというわけだ。

布施から始まり、精進に至るまでのプロセスがだよ、百パーセントできている人は、もうその後の瞑想、そして悟り、あるいは解脱というものはそれほど難し

いプロセスではないんだよ。なぜかというと、その人の内側はね、もう修行を始めたころの煩悩の塊であるその人ではなくて、シヴァ神や、あるいはグルと同じような心の状態になっているから、例えば瞑想のときのイニシエーションだって、意思が一致しているわけだから、イメージだって、オーバーラップさせることはそれほど難しくないと。最終的にはコーザル世界において、解脱に必要なグルの純粋なデータを、プリントすることだってそれほど難しくないわけだね。

さあ、これで三日間通してね、布施から智慧に至るまでの概略を話したけれども、このプロセスというものが、それは、マハーヤーナ・システムといわれている一つの体系なんだね。これを完全に理解し、完全に実践するならば、いずれあなた方は最終的にはね、仏陀となるでしょう。あるいは、創造主となることができるでしょう。

一九八八年一月二十九日から三十日　ニューヨークにて

第二部

幸福な来世を望むあなたへ

◆第一話　幸福な来世へのステップ

「天界に至る道」

◉ポア・コースの意味合い――菩薩としての修行

今日は、オウム真理教のポア・コースについて、その修行の意味合いについて話したいと思います。

ポア・コースの修行とは何か。これは、釈迦牟尼（しゃかむに）の時代の天界に至る修行に当たるわけだね。天界に至る修行というのは何か。これはね、ヨーガタントラはやりたい。解脱したい。しかし、その条件が整っていない。条件が整っていないとは何かというと、例えばここに素晴らしい人がいて、その人の徳というものは、他の人の徳をはるかに越えているのだが、家庭の大黒柱である。あるいは、家庭

の主婦である。あるいは、会社を持っていて、従う人がたくさんいる。こういう人が、例えばヨーガタントラの修行を行ない、家庭を捨てたならば、あるいはいったん一年や二年でも修行に入ったならば、その会社でその人を信頼してついてきている人たちが、何百人、何千人と路頭に迷わなければならない。あるいは、大黒柱が抜けたなら、その大黒柱を愛し、ついてきた妻、あるいは子供たちが路頭に迷わなければならない。これは妻が修行する場合も同じだね。これらを条件が整っていない、というんだ。

　では、そういう人たちは、ヨーガタントラを行じている者に比べて徳がないのか、といえばそうではない。その人たちの今生の役目というのは、菩薩なんだね。ボーディサットヴァとはいったい何か。これは、真実を学び、周りの人たちを幸福にしていく者、これがもともとのボーディサットヴァの意味です。そして、いずれは自己と関係のある人々を、例えばある人は百人かもしれない、ある人は千人かもしれない、ある人は百万人かもしれない。その人たちを一気に「マハーヤーナ号」に乗せてマハーヤーナへ連れていく、これが菩薩の意味合いだね。

そして、今生で解脱できない条件の人が、「自分はヨーガタントラの修行をできないから、真理を実践できないんだ」と思ったならば、それは大変誤った宗教的な考えということになろう。そして、そういう人を見捨てる宗教的な組織があるとするならば、それは大変誤った組織ということになろう。いいですか。そして、このポア・コース。まあ、ポアという意味合いから説明すると、これは、高次元の身体に意識を移し変えるということだ。高次元の身体というのは、要するに微細な身体だね。これは、天界を超えた高い世界の身体、あるいは、光の身体のことをいいます。ポアというのは、そういうことです。そして、先程の菩薩たちは、ポアの修行を実践することによって、この世で幸福になり、周りの人も幸福にすることができる。そして、ステージも高まっていく。これが、ポア・コースのもともとの狙いなんだ。

◉在家修行者の手本——アナータピンディカ長者

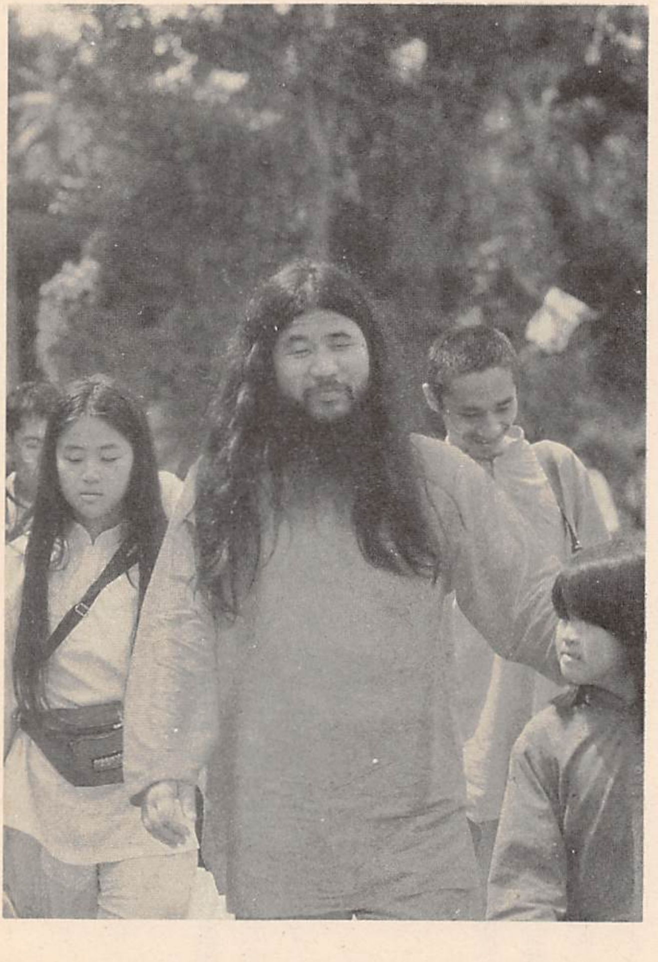
わたしの好きな仏教徒がいる。それはアナータピンディカ長者だ。これはしょっ

ちゅう出てくる話だけどもね、アナータピンディカ長者という方は、皆さんもよく知っている祇園精舎(ぎおんしょうじゃ)、あれを寄進なさったお方だ。彼は釈迦牟尼の説法を聞き、わたしは今生で解脱をするのはよそうと考えられた。わたしは釈迦牟尼の教団を支えようと考えられた。いいですか。祇園精舎を布施したほどの方だ。功徳も多大に持っていただろう。なぜ彼はヨーガタントラの修行をやらなかったんだろうね。それはこういう理由だ。

アナータピンディカ長者というのは、大変なお金持ちだ。そして、彼に仕えている人たちもたくさんいたし、もちろん奥さんや子供もいた。だからだよ、もしアナータピンディカ長者が修行者となったならば、彼に仕えているシュードラたち、つまり従者たちは路頭に迷うわけだ。そこで、長者は考えられた。わたしは今生では釈迦牟尼のお手伝いをしよう。実際はアナータピンディカ長者は釈迦牟尼に帰依なさっていた。しかし、釈迦牟尼の弟子のサーリープッタと最も近かったわけだね。「わたしはサーリープッタを支えよう。釈迦牟尼を支えよう」、そうお考えになったわけだ。彼はそれまでの豊かな生活をいっさい放棄し、ぼろ布を

まとい、周りの人を幸福にし、そして仏教教団を支えたわけだ。
じゃあ、アナータピンディカ長者は何を求めたんだということになる。君たちなら、「わたしは病気をしたくない。長生きをしたい。若くありたい」と考えるだろう。ところがだよ、『阿含経典』の第四巻「天子相応」を見てごらん。こう書かれているよ。年老い、病至り、そして亡くなったアナータピンディカ長者は、第四天界の兜率天に生まれました、と。おかしいね。だって修行というものは、病気をしないために修行するのではないのか。ところがそうではないね。ちゃんと年をとって病気をして、そして死んでいったと書かれている。

では、アナータピンディカ長者の功徳は何に変わったんだ。これは二つの功徳に変わっているわけだ。一つは、兜率天という高い世界――この兜率天というのは、今のオウムと同じように真理のみを説き明かしている天界です。まだ、粗雑次元にある。だから、肉体を持っています――そこに生まれ変わったということだ。もう一つは、アナータピンディカ長者のレベルというものは、もはや病気になってもそれを苦に感じないほどのものだった。そのレベルに達したということ



がそうです。いいですか。

ところで、大内君（当時のオウム真理教大阪支部局長）がね、奉仕の修行によって一週間くらい前に悟りました。まだ、セルフ・リアライゼーション、最終的な悟りではないけれども、タントラの経典に書かれている、この現象界というものと、それからニルヴァーナというもの、これが同一である、つまり現象界の苦の裏側には楽が存在しているのだということを、彼は悟ったわけだ。そして、この大内君が今やっていることが、本当の意味で、ヨーガタントラ、シッディ、ポアのコースの中で、ポア・コースの狙いなんだね。

◉長者の修行——布施、持戒

話が飛んだから元に戻そう。いいですか。そのアナータピンディカ長者は釈迦牟尼の瞑想中、しょっちゅう出ていらっしゃるわけだ。そして、いろいろと会話をなさる。真実の交歓をなさるわけだね。おそらく、この中でわたしよりも先に肉体を捨てられて兜率天に上がられた方は、このお二人と同じように、わたしと

会話をすることになるだろうね。

ではいったい、アナータピンディカ長者に与えた釈迦牟尼の修行というのは何だったんだということになるよね。これは簡単なことなんだよ。まず、三つの布施をしなさいと。これは、財施・安心施・法施だ。そして、持戒です。これは生き物を痛めつけてはいけない、慈しみなさいと。盗んではいけない、施しなさいと。愛のないセックスをしてはいけない。嘘をついてはいけない。それからもう一つ、これは皆さんにちょっと苦痛かもしれないけど、酒を飲むなと。この五つだ。それと、簡単な瞑想だ。じゃあね、なぜこんな簡単な瞑想と、この布施・持戒によって、第四天界という高い世界に行けるんだということになってくるよね。

◉殺すなかれ——怒りの炎の滅尽

それはこういうことなんだよ。地獄の本性というものは、怒りの炎なんだ。そして、怒りは何を表わすかというと、他を傷つけることを表わす。つまり、殺生をするなかれ、この背景にあるものは、怒りの炎を滅しなさい、ということなん

だ。そして、この怒りの度合によって、地獄の世界も違ってこよう。
わたしの例を話そうね。わたしは小さいころから生き物を殺すのは好きではなかった。ところが、四歳、五歳、六歳と成長していく過程において、わたしの周りはみんな殺生をやっているわけだ。わたしも殺すということについて、違和感がなくなってきた。それから、虫、オタマジャクシ、カエル、魚と殺生をし、悪業を積んでしまった。わたしは地獄のカルマを積んだわけだ。当然、そのカルマというものは返ってこよう。そのころのわたしというのは、ポアさせることができなかったからね。今だったら、高い世界に導くこともできるわけだから、わたしにはカルマになるどころか功徳になろう。しかし、当時はそうではなかった。ね、ここまで話すと、なんだ麻原は凡夫だと、ひどい人間だと、そう考えるかもしれないね。いや、事実そのとおりだ。その小さいころからの経験ね、これによってわたしは盗みも覚えた。生まれてから十回くらいの小さな盗みだけれども。しかし、盗みもやった。これでわたしは餓鬼道に堕ちるカルマを積んだ。
ところがだよ、生まれてくる前に、高い世界から降りているわたしは、当然そ

の苦痛に耐えられないわけだ。カルマというものに。そうすると、無意識のうちに修行を始めるわけだね。そして、その修行で一つずつ悪い因縁を切っていくわけだ。そして、わたしはその修行期間において、わたしの膨大なカルマというものを消滅させることができたわけだ。

じゃあ、地獄というものは殺生が原因であり、殺生とは自己を守るための怒りの炎が原因であることはわかったね。では逆の言い方をすれば、怒りの炎を、他を害する気持ちをあなた方が捨てたならば、あなた方に地獄の道はないということになるね。わたしの周りの女性でね、堕胎経験者が二、三人いる。例えば、その人たちが本当の修行に入ったとき、その人たちのカルマはどんどん出てくる。恐怖心も出てくる。そのとき、その人たちはだいたい耐えられなくなる。つまり、それは何を意味しているのかといえば、縁によって生じたものは、必ず縁によって返るんだよ、ということだ。わたし自身が身をもって体験している。

だからいいですか。今日を境にできるだけ殺生してはならない。そして、生き物を慈しみなさい。その生き物に対する愛というものも、人間と同じように平等

な愛でなければならない。

◉盗むなかれ——貪りの滅尽

次にだ、盗みはどうだ。盗みの気持ちというのは欲張りの気持ちから出ているね。ストレスで盗んでいる人がいるけど、あれはやっぱり心の内側に欲張りの気持ちがある。そしてそれはね、貪(とん)・瞋(じん)・癡(ち)の「貪」と関係している。いいですか。その盗みというものの背景にある貪(むさぼ)りを滅したならば、わたしたちはどの世界に行かなくて済むか。餓鬼の世界に行かなくて済む。

仏典ではこう書かれているね。餓鬼の世界というものは、例えばここに食物がある。それを口に入れようとした瞬間に食べられないものに変わってしまうのだと。しかし、それは真実ではない。餓鬼の世界というものは、ここに一個のおまんじゅうがある。それはね、本当は十人あるいは百人を生かすことのできるおまんじゅうだ。しかし、それを百人で争って、そこで力の戦いが起きるよ。で、その一個のおまんじゅうを食べてしまうと、もう食べ物がないわけだよ。そうする

と、勝った一人はお腹の中に入って瞬間的に満腹になる。しかし、それはすぐに消えてしまう。もちろん、食べられなかった九十九人も飢えに苦しむことになろう。これが、餓鬼の世界だ。

じゃあ、どうだ。この地球の精神レベルは落ちているとわたしは言っている。この世に餓鬼の世界がないかと考えてごらん。ね、ないことはないね。食べられないで死んで行っている生き物たちがいるわけだね。食べられないで死んでいっている人間がいるわけだ。一方では、例えば残飯としてものすごい量の食物が捨てられている。これを考えたらわかるとおり、どうやら餓鬼の世界はあるね。ただね、この地球上にある餓鬼の世界というのは、模擬のものであって、本当の餓鬼の世界ではない。実際にはもっと苦しい。何が苦しいかというと、例えばだよ、ここに食物があって、それが食べられなくて死んでいく。死んでいったら、次の転生ができるわけだから楽だよ。そうだろう。ところが、もし死ななかったらどうなるか。最も苦しい飢えの状態で死ななかったらどうなるか。これが餓鬼の世界だ。じゃあ、その餓鬼の世界を滅するためにはどうしたらいいか。それはわた

しが先程言ったとおり、他人のものを盗むなかれ、そしてそれだけではなく施しなさい、これを実践することだ。その背景には貪りを滅せよという意味合いがあるんだね。いいですか。

◉嘘をつくなかれ——タマスの滅尽

じゃあ、次に来る動物の世界はなんだ。これは二つの系統があるよ。一つは快楽主義、もう一つは曖昧さ。今日はね、このうちの一つ、曖昧さに絞って動物界に生まれ変わるための条件ということを考えてみよう。

君たちの周りに動物はたくさんいるよ。じゃあ、この動物たちは、本当に人間が生まれ変わったものなのか、あるいは高い世界から生まれ変わったものなのか、という疑問が出てこよう。わたしはそうだと言い切る。なぜだそれは、と聞かれたならば、例えば人間のトイレでおしっこやうんちをする猫とか、手できちんと襖を開け閉めする猫とか、知っているよね。うちの猫はそうだよ。まあ、この猫についてはわたしと縁のある人間だという話をしているけどね。あとは、例えば

テーブルの上でしか食事をしないニワトリとか。いや、いるんだよ、実際に。
そういうことを考えればわかるように、その動物たちは人間の記憶を持ってい
るわけだな。例えば人間もそうだろう。苦しくなったときにミャオーと鳴くとか。
いや、いるはずだよ、これは。急にワンと吠えてみたくなるとか。これは要する
に動物界の記憶だ。だからそんなに差がないわけだ、人間と動物というのは。
では、どうして動物に生まれ変わるのかというと、曖昧さなんだね。では曖昧
さの背景は何かというと、これは嘘なんだ。例えば、わたしがあなた方にいい人
として見てもらいたいと思ったならば、いろいろと嘘をつくだろうね。あるいは
曖昧に答えるだろう。それは、タマスのエネルギーを活性化して、わたしの周り
に壁をつくるわけだ。はたから見ると、タマスのエネルギーは綺麗だから、「あ
あ、あの人はいい人だ」と思う。ところが、中のわたしは腐っている。そして、
よく考えてごらん。わたしのサイドから外を見ても同じなんだよ、それは。曇り
ガラスで見ているようなものだ。当然、真実は見えないわけだ。そこから、曖昧
さが生じてくる。

よくあなた方もこういう経験をしているでしょう。あの人はいい人なのに、どうして人生が悪いんだろう。どうして、不幸が続くんだろう、と。それは別にいい人ではないんだよ。あなた方の目がタマスにだまされているにすぎないわけだ。いいですか。実際にはその内側のタマスを背負っている人は、ものすごい葛藤をしてね、苦しんでいるわけだ。自己のついた嘘によって。はい、これで地獄に生まれない道、餓鬼に生まれない道、動物に生まれない道を説いたよ。

◉地獄を破る十の戒め

わたしも、現代の仏教徒に批判されないように、殺生、偸盗（ちゅうとう）、邪淫（じゃいん）、妄語、綺語（きご）、悪口、両舌、あと貪・瞋・癡を十悪と言っているけど、実際よく考えてごらん。殺生と怒り、瞋ね、これは表裏じゃないか。偸盗と貪り、これは表裏じゃないか。そして無智、言い方を換えれば曖昧さ、これと癡、これは表裏じゃないか。どうだ。つまり、殺生の裏側にある慈しみなさいという心の実践ができたならば、怒りを滅する実践はいらない。偸盗の裏側にある、貪りを捨て、施しなさいとい

う意味合いがわかったならば、貪りは滅する。それから嘘をつかないという言葉の裏側にある曖昧さを捨てなさい、はっきり自己を見せなさいということを実践できたならば、無智を滅する修行はいらないことになるね。ほら、戒が減ったよ。これで、七つになった。いいですか。

これによって、まずわたしたちは地獄へ生まれないだろう。釈迦牟尼はこの三つ（地獄・餓鬼・動物）をひっくるめて地獄と言ってるんだ。だから、地獄を破ることができる。ある宗派では、マンダラを掲げるだけで地獄を破ると言っているみたいだけど、実際は不可能だ、そんなものでは。地獄を破るためには、先程言った、生き物を慈しみなさい、盗まないで施しなさい、嘘をつかないで真実を言いなさい、これあるがゆえに、地獄を破ることができるわけだ。

◉愛のないセックスをするなかれ

次に、人間界の条件は何だということになってこよう。それはだいたいにおいて快楽だね。情愛だ、心だ、言い方を換えれば。もし、わたしたちが心で引っか

かっているのであれば、人間界に生まれ変わることになろう。では、それを戒めとしてどう表現するんだ。そこに邪淫が出てくるわけだね。快楽を貪る気持ち、愛されたい気持ち、それは真実の愛ではないよ。愛情を受けたいという気持ち、あるいはたくさんのものを味わいたいという気持ちだね、これが邪淫の背景にあるわけだ。

そうすると、釈迦牟尼の説いた、殺すな、盗むな、愛のないセックスをするな、嘘をつくな、これでわたしたちは地獄にも生まれない。餓鬼にも生まれない。動物にも生まれない。人間にも生まれない。これはすごいね。

◉酒を慎め

次に皆さんの嫌がる「酒を飲むな」が来る。これはちょっとショックだな。では、なぜ酒を飲んではいけないんだ。酒は飲めば気持ちのいいものだし、いいじゃないかと考えるかもしれない。だから、オウムでは酒を飲むなとは言っていない。慎みなさいよと言っているね。では、飲んだらどうするのか。帰宅してからガー

ジャ・カラニー（浄化法の一つ）をやって出してしまいなさいと言っている。今、人間界のレベルは低いから、酒というものが人と人とのつながりをもたらすものになっている。だから、当然飲んだら即ガージャ・カラニーをやって出す。悪いものを食べたら、ガージャ・カラニーで出す。それがオウムの修行だよ。そうすると、別に現世的な生き方をしていてもそんなに弊害はない。

では、酒を飲まないことによって、わたしたちにどのような恩恵があるんだ。わたしたちはね、君たちの知っている阿修羅の世界、人間界よりも一つ高い世界に生まれ変わらなくて済むわけだ。阿修羅の世界とは何だ。そこに行く人は、例えば自己を律し、戒を守り、しかし酒は好きである、そういう人だ。力優位の世界なんだね。酒を飲んだらどうなる。力強くなるでしょう、必ず。そして、自己を過大評価して、そのために自己におぼれてしまうわけでしょう。

例えば、あまり宗教的な批判はしたくないけども、太古神道ではない、現代の神道はその典型だね。そうでしょ。よく武将を祀っているよね。その武将は、禅の修行をしたかもしれないけど、酒を飲み、自己を過大評価したがために殺され

てしまった。つまり、力の世界、これが阿修羅の世界だ。
しかし、力だけではないよ。この世界には一応、情もある。それから智性においては人間界よりも上だ。しかし、自己の力というものを、自己の本当の力というものを理解していない。だから、力によって滅びるわけだね。しょっちゅう神々と戦っているわけだね。
現代の科学は、阿修羅系統の科学だな。本当だったら、万民にプラスに働くはずのエネルギーを力のために使っている。そうだろ。ダイナマイトが発明されたときはどうだ。その前の火薬はどうだ。原爆はどうだ。核融合が発見されたときはどうだ。みんな戦争に使っているじゃないか。飛行機も使ったよ。船も使ったよ。これは完全に阿修羅の影響を受けている。
よし、じゃあ阿修羅もわかった。酒を飲むのはやめよう。禁酒できる人はやりなさい。できない人は、飲んだ後でガージャ・カラニーをやりなさい。いいね。

◉天界に向けて

それができたらどうだ。すると、その人の行く道は天界しかないわけだよ。特にだよ、それで瞑想をし、修行者を供養したならば、行く世界は一つしかありません。どこだ。兜率天だ、これは。第四位の天界、兜率天に行くことになろう。ほらほら、ポア・コースの意味合いがわかってきたね。天界に行くための道なんだよ。

まず明日から、例えばアリさんが歩いていたら、「ああ、アリさん、こんにちは。今まであなたの仲間をずいぶんつぶしましたけど、今日からつぶしませんから」と、そういう気持ちで接してごらん。例えば、百円落ちていた。これは交番に届けてもあまり意味がないから、困っている人にあげるとか。もちろん大きなお金だったら、落とした人も困っているだろうけど、百円なら多分そんなに困らないだろうからね。

次に、今まで一日二十回ついていた嘘をまず、十回にしなさい。すると、こういう質問が出てくるだろう。

「いや麻原、それは困るんだよ。わたしは営業をやっているんだ。営業は嘘をつかなければならない。どうしたらいいんだ。」
と。そのときは、嘘をつかないで、ただ単に長所だけを言いなさい。長所を言うことと、嘘を言うことは違うからね。ちゃんと使用書には正確な説明があるだろうから。ただ単に長所をまくしたてる。これで少なくともタマスは半減します。
じゃあ、性欲が出てきて快楽を貪りたくなったらどうするんだ。これが一番困る問題だね。そのときはこうしよう。『マハーヤーナ』をちゃんと読んでね、ムドラーの項があるよね。そのモデルと一緒に月に二十日間、ムドラーを行ないなさい。それによって、性欲は消えるからね。
そうすると、あなた方はアリも殺さない。蚊も殺しちゃだめだよ。盗みもしない。嘘もつかない。そして、邪淫もしない。で、酒は飲むけれども、ガージャ・カラニーで出す。これができたならば、間違いなく天界に行くことができよう。

◉布施の必要性

では、その戒だけを守っていれば布施をしなくて済むはずじゃないかという問題が出てこよう。ところが、実際はそうではない。なぜだ。わたしたちは先程も言ったとおり、生まれて今まで相当の悪業を積んでいるわけだ。例えば、わたしの例にあるようにだ。これは少なくとも布施ぐらいしないと落ちないよ。いや、わたしは学生で一日三百円で過ごしている。だから布施できないよ、と言うかもしれない。だが、そんなことはない。

もし、物質的な布施ができなければ、安心施というものがあるじゃないか。例えば、ボーディサットヴァの会（オウム真理教の、奉仕活動を実践する集まり）に参加する。そこに非会員が来ていて、その人が苦しんでいれば、その苦しみをじーっと聞いてあげて、自分も一緒に苦しむ。これも布施だ。あるいは、月々送られてくる『マハーヤーナ』をね、友達に読んで聞かせる。これは法施だ。もちろん、買って読んでもらうのが一番いいわけだけども。だから、布施というものができないということはない。どんなものでもできるわけだね。そして、その上

に持戒があったならば、間違いなく天界に行くだろう。

◉「財施」の三つのステージ

では三つの布施について話そうかね。まず、物施だ。これは大阪の人たちはもう全力でやっているみたいだから、あまり話す必要はないけども、要するに限界まで布施しなさいということだね。一般的にいわれている布施をしなさいということだ。こちらの方が今日、立派なことを言われた。一回に千円使っている食費を八百円にしたら布施できるじゃないか、と。わたしはそれを素晴らしいことだと思う。そういうふうに限界、限界に布施の気持ちを持っていってごらんなさい。あなた方の心というのは、どんどん透明になってこよう。

そしてこの財施にはね、三つのステージがあるんだよ。三つの財施とは何かというと、第一に真理に対する布施だ。これは、例えばあなた方にとってオウムというのは真理である、と。だから、オウムに布施しよう、というものだ。この真理に対する布施というものは、あなた方がもし来世でまた人間に生まれ変わり、

苦しんだときに、必ず真理に導いてくれよう。当然、このオウムの組織はあなた方を真理に導くだけでなくて、あなた方の心の引っかかり、あるいは物質的な引っかかりを取っていくわけだから、例えばあなた方が物質的に困ったとき、必ず助け舟が来よう。あなた方が本当に悩んでいるとき、必ずだれか聞いてくれる人が来よう。これが真理に対する布施だ。

次に偉大なのは、貧しい人に対する布施だ。しかし、仕事をしないで明日食べる米がない、これは貧しいとは言わないよ。本当に明日食べる米がなくて死にそうな人に対する布施だ。これはじゃあ、あなた方にどういう恩恵を与えてくれるんだ。これはあなた方が今生、あるいは来世で、物質的に困ったとき、あなた方の大きな力となろう。これが貧しい人に対する布施だ。

そしてもう一つ、どうでもいい布施というものがある。これは、会社に布施するとか、あるいは社会的な布施だね、一般的な。これはあまり影響がない。要するにこれは金を捨てるようなものだ。

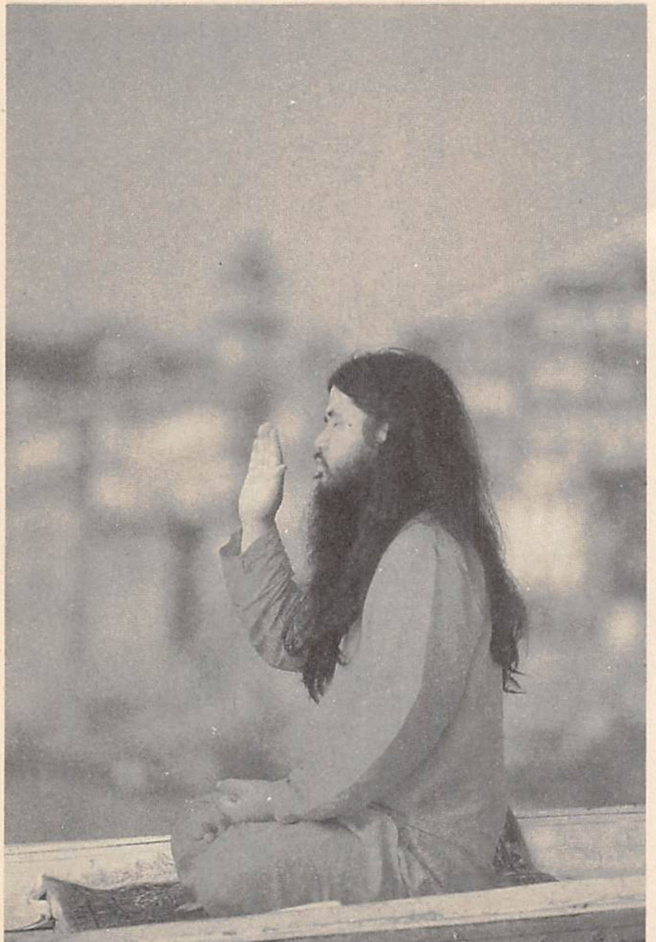
では、最も悪い布施は何かといったら、これは真理ではないものに布施をした

場合だ。わたしはそれでとんでもない目に遭ったけども。その流れに入ってしまう。修行をすればするほど、頭の中が金の計算をし出すのだから怖い。これが正しくないものに対する布施だね。

だから、布施行は三段階あって、悪い布施という別格が一つあるわけだ。別格の布施をした人は、その流れの影響があるかもしれないから注意するように。

◉「安心施」の三つのステージ

次に来るのが安心施だね。この安心施にも三つのステージがあるよ。その最も素晴らしい安心施というのは、あなた方が苦しんでいるときに、それでも周りの人の苦しみを聞いてあげることだね。さらにもう一つ、限界まで他人の悩みを聞いて、他人の苦しみを取ってあげる。これは最高の安心施だ。次の安心施はね、真理の流れに入っていて、他の人よりも苦しみは少ないけど、少し苦しんでいる。そのときに、相手の苦しみを取ってあげる安心施だね。そして、この二つに比べると最も効果がないのは、自分が楽しんでいるときに他人の苦しみを取ってあげ



る安心施だ。これは順次ね、あなた方に対して強いリアクションがあるだろう。
第一の安心施、これを実践している人は、今生でも来世でも、あなた方が本当に苦しんでいるときにね、あなた方の苦しみを取ってくれる人が現われよう。第二の場合は、あなた方がちょっと苦しんでいるときに、そういう人が現われよう。第三はどうでもいいときに現われる。これはちょっと困るね。あなた方の苦がないときに、苦しみを取ってあげましょうと現われてもしょうがないからな、これは。しかし、そういう意味合いがあるわけだ。まあ、この第三番目というのは安心しなさい。実際はあり得ないから。なぜないんだ。解脱をするまで苦は存在しているからね。だから成就者がいくら周りの人の苦しみを取ってあげて安心施をやったとしても、全然功徳にならないわけだ。成就して苦がないわけだからな、これは。

◉よい「法施」、悪い「法施」

はい、次は法施だ。この法施にはよい法施と悪い法施がある。これはグル、あ

るいは高弟たちにね、あなたは精進の段階に入ってますよと言われた人は、どんどん自分の中で法を咀嚼し、展開していってよろしい。しかし、まだ法をろくに知らないで、勝手に解釈して法を展開することは正しくない。いいですか。

そして、法施の本当の意味合いというものはだよ、真実をダイレクトに伝えるということだ。この真実をダイレクトに伝えるとはどういう意味かというと、例えばこういう説法会に人を連れてくる。これも法施だ。あるいは、『マハーヤーナ』を読ませる。『イニシエーション』を読ませる。これも法施だ。あるいは、テープを聴かせる。これも法施だね。では、わからないで咀嚼して、間違った法施をしたらどうなるかというと、あなた方の今生、あるいは来世において、間違った情報をインプットされて修行者として潰れていってしまう可能性がある。これは気をつけなければならない。

だからあなた方は、今自分はどのステージなのかということをはっきりと認識しなさい。つまり、まだ真理の法を理解できていないから他人に直接『マハーヤーナ』を勧める段階なのか、あるいは法を咀嚼して自分の言葉で法を説く段階なの

かを。そして、それを認識することによって、あなた方のステージというものは上がってこよう。

◉貪・瞋・癡の滅却——幸福な来世へ

さあ、財施、安心施、法施について説いたね、わたしは。それから、盗むなかれ、殺すなかれ、邪淫をするなかれ、嘘をつくなかれ、酒はできるだけ飲むな、と。そして、皆さんがポア・コースのテキストに載っている簡単な瞑想を一日三十分ずつくらい実践するならば、必ず天界へは行くことができよう。それはわたしが保証しよう。もちろんこういう説法会には出てこなければ駄目だよ。でも保証されたって、例えば死んで地獄に落ちたらどうするんだという疑問が出てくるかもしれない。それはね、あなた方の心がどんどん軽くなっていくから心配しなくてよろしい。重たくなってきたら言いなさいよ。それは大内君が解決するだろうし、シャンティーさんが解決するだろうし、もちろんわたしがここにいるときには、わたしが解決しよう。

心から出てくる怒り、その怒りの炎によって、わたしたちは地獄に落ちるわけだから、心の中から怒りが消滅したらどうなるか。わたしたちは地獄に行かないよ。そうだろ。例えば、貪りの炎でわたしたちは餓鬼道に入るわけだから、その貪りの気持ちがなくなったら、餓鬼道には落ちないでしょう。嘘をつかなくなったら、当然動物界には行かないでしょう。

これはちょっと余談になるけども、人間の言葉の数と、動物の言葉の数を比較してごらん。人間の言葉の数の方が多いね。あなた方が猫や犬の言葉を理解できればわかるけども、本当に猫とか犬の言葉は少ないものだ。これはなぜかというと、曖昧にしているわけだから、言い方を換えれば言葉がいらないんだよ。例えば、暑いとか寒いとか、好きだとか嫌いだとか、食べたいとか興奮しているとか、こんなものでいいわけだ。ところが、人間は動物に比べたら正直なんだね。いいですか。だから、少なくとも来世は天界に行こう。はい、じゃあ質問に入ろう。

一九八七年九月十四日　大阪にて

◆第二話　いっさいの苦を越えて

「来世を見すえた徳の修行」

◉六つの転生の条件

それでは、わたしたちがどのようにしたら天界に行くことができるか、それについて少し詳しく考えてみよう。

その前に、まずこの欲六界というものは六つのパートから分かれていると。それは地獄、この地獄というのは嫌悪を中心とした世界であると。よって、わたしたちが、もし嫌悪から来る怒りというものを完全に消滅してしまったならば、わたしたちは地獄へ至ることはない。

そして餓鬼、これは貪りだね。これは性欲の貪り、あるいは食欲の貪りを含め

た貪りだ。ね。とどまることのない性欲、とどまることのない食欲、これをもしわたしたちが滅することができたならば、わたしたちは間違いなく餓鬼の世界から解放される。

そして、動物だ。いったいこの動物とは何かと。ね。何を原因として動物になるのかと。それは無智だ。いったい無智とは何か。それは、いまだカルマの法則も知らず、ね、そして目の前にある楽しみに心を奪われ、ね、そして気づいたときには迷妄の世界に入り死んでいく。そして、準備をするだけの十分な時間があるのに死の準備を行なわないと。これが無智の状態だね。そして、この状態から生じる世界、これが動物であると。

人間はどうだといったら、人間は執着のカルマ優位であるということができる。わたしの国が正しい。あるいはわたしの会社、これは素晴らしいと。あるいはわたしの家族は素晴らしいと。確かに素晴らしいものを素晴らしいと言う、これは素晴らしいことだ。しかしそうではなくて、そこに情が入り、偏ったものの見方を行なう。ね。これがわたしたちが人間界に生まれ変わる要因なんだね。

そして、次に来るのが阿修羅だ。この阿修羅は、嫉妬優位の世界ということができる。ではいったい嫉妬優位とはどういうことだと。自分の状態がわかると。そして相手の状態がわかると。ね。そして、努力をすれば追いつくかもしれないのに、功徳を積めば追いつくかもしれないのに、それをなさず嫉妬すると。ただ人間界と違って、自己のレベル、そして相手のレベルが理解できてるわけだから、人間界より高い世界に位置するということができる。

次は天界だ。天界は、この欲六界の中においては最も高い世界に属すると。そして、その最も高い世界に属する天界の住人は、自分たちの功徳に酔いしれ、そこには功徳から生じる喜びしかないわけだから、その喜びに浸っている。これが天界だ。

◉天を越えるには

そして、在家においては、まず徳をいくら積んでも、この天界が最上位の世界だろうということができると。しかし、もし在家の人が自己の苦しみ、ね、これ

だけを求め、楽しみはすべて真理に対して布施を行なったならば、その人は天界の上にあるシャンバラ、あるいは兜率天に生まれ変わることができるといえよう。
　ではなぜだと。わたしたちは、心の働きによって、そして、カルマの働きによって、自己の輪廻というものを決定している。そして、先程も言ったとおり、もしわたしたちのカルマのデータが、苦悩だけしかなく、そして喜びを味わうことのできない、そういうカルマの状態だったならば、わたしたちは地獄へ生まれ変わってしまう。
　逆に、苦悩を味わわなきゃならないものが、ある程度はあるんだけれど、それよりもずっとずっと功徳が——オウム真理教の信徒の皆さんみたいにね——功徳の方が優位であれば、これは当然功徳優位のカルマが先に生じるわけだから、天界へ生まれ変わり、その功徳が消耗するまで、その天界に安らぐことになる。
　ところが、この人間界で功徳を積み、そして悪業から生じる苦悩に対して、喜んでそれに耐えようとしている人がここにいたならば、それは、最終的には功徳だけの状態になり、そしてシャンバラに生まれ変わると。

◉苦しみの消滅——現世浄土へ

仏陀釈迦牟尼はこう言ってらっしゃる。もしここに結婚している夫婦があり、そして、その妻が、いくら夫が暴力を奮おうとも、あるいは、いくら舅・姑にいじめられようともじっとそれに耐え、尽くし、そして聖者を敬い、真理を実践するならば、天界へ生まれ変わることができると。わかるかな、みんな。そこに生じているものは何か。それは、自己の悪業の滅却なんだね。いいかなこれは。

ところが、夫が一生懸命働いていて得た金を、できるだけたくさん奪い取り、洋服を買ったり宝石を買ったり、あるいは友人と遊ぶと。——いいかな。この妻は、地獄に至る妻であるといわれるね。仏陀釈迦牟尼は「盗賊である妻、そして、彼女は地獄に至る」と言ってらっしゃるわけだけれど、ここでは現世の、どうだ、喜び、つまり功徳の消耗ということをいってらっしゃるわけだね。

つまり、ベースになってるものは何かといったら、今のはあくまでも、比喩だと考えたらよろしい。何かといったら、できるだけたくさんの、多くの功徳を積み、そして、できるだけたくさんの、多くの苦しみを受け、そして、苦しみを消

滅してしまい、いかなることが起きようとも、いっさい影響を受けない状態、これこそ現世浄土であると。いいですか、これは。

◉功徳のバロメーター――布施・持戒

　では、ね、在家の方が現世浄土に入るためにはどのようにしたらよろしいんだと。まず、そのためには、グル、そして直接の導き手である大師、それから真理の法に対してだ、尊敬し、敬い、そして供養すると。その供養は、三つの布施を根本とした供養を行なうと。それは、財施・安心施・法施という三つの供養だね。
　もしこの三つの供養を行ない、在家信徒がだよ、五つの戒を守るならば――戒というのは、殺生を行なわない。盗みをしない。それから、愛のないセックスをしない。嘘をつかない。そして酒、マリファナ、覚醒剤、こういう、心を自己の支配から薬の支配に委ねないといった五つの戒を守るならば、そして、もう一歩進めて、その上に必要のない言葉をしゃべらない。悪口を言わない。あるいは仲たがいさせるような言葉を使わない。あるいは貪り、それから嫌悪、そして無智

から脱却すると。このような戒めを守るならば、その人は天界へ行くことができると。

ではなぜだと。この世で十の戒めを守り、あるいは五つの戒めを守り、三つの布施を行ない続けること、これは、みんなどうだ、楽だと思うか、難しいと思うか。大変難しいね。そこにはどうだ、苦痛が生じると思うか、生じないと思うか。そして、苦痛が生じるということは、わたしたちの悪業はどうなる、――滅却するよね。そして、三つの布施を行なうことによって、わたしたちが功徳を積むということは、どうだ、わたしたちの功徳は増大するよね。

◉オウム真理教のレベルの高さ

わたしは『実践真理』（当時の教団機関誌）の原稿を読んでいて感じることなんだけどね、オウムの、やはり修行レベルというのは高いんだなと思うんだ。それはなぜかというとね、例えば、まだ出てない二月号の『実践真理』だけども、その中での内容で、布施の実践を行なうことによって心が豊かになり、現象が、

現象界の状態が変化し、すごく生きやすい状態が出てきたと。で、願望がかなうようになったと。ね。そこで、その、ある信徒さんはね、願望がかなうということは徳を消耗するわけだから——そうでしょう——、願望はかなわないで、それが自己の解脱、および大乗の心の成熟に向かってほしいなと祈念したそうだ。どうだ。——素晴らしいよね。

そして、その素晴らしい発言が、まだ入信をして一年もならないような信徒さんの口から出てくると。ましていわんや、ね、二年、三年と修行している在家の信徒の方の心の中には、どのような思いがあるんだろうかと。そして、そのような心の働きによってなした三宝に対する帰依、そして三宝に対する布施、そしてグルが提示した戒を守るということは、そして現象界に出てくる喜びをいっさい供養し続けるということは、その人はいったいどういう世界へ行くだろうね。どうだ。——その人の心には、喜びの種子しかない状態が現出してるわけだよね。わかるかなこれは。ということは、その人ははるかに天界を超え、そして、シャンバラに赴くわけだ。

◉出家と在家、その到達点の違い

ではだ。出家した弟子たちはどのようにして功徳を積み、どのような世界へ行けるんだろうかと。まず、出家した弟子がすべてを三宝に委ね、そして戒を守る。ね。そして全力でワークを行なう。あるいは全力で瞑想修行を行なう。これによって、まず何が得られるか。——クンダリニー・ヨーガの成就がまず得られるよね、どうだ。そして、そこで光の体験をするよね。どうかな。

ということは、クリアライトに没入することは楽々できるよね。つまり、シャンバラは、この欲界の最上位にある世界であるといえるわけだけど、そして、高位アストラルの投影といえるわけだけど、在家の人の行けるシャンバラというのは、欲界の最高位にあるシャンバラだよね。

それはなぜかというと、物質優位の、どうだ、功徳だよね、これは。いいかな。ところが出家したシッシャは、もちろん物質も極限まで抑え、そしてほとんど供養してるわけだから功徳が備わっていると。そして、それだけではなくて、心においてはほとんどの時間を救済のために振り向けていなければならないわけだか

ら、――わかるよね。当然心の成熟というものは、どうだ、進んでくるわけでしょ。

そして心はコーザルに影響を与え、イメージはアストラルに影響を与えるわけだから、高位アストラルのシャンバラに生まれ変わることができるかもしれない。あるいは、マハー・ムドラーの成就、大乗のヨーガの成就、あるいは報身のヨーガの成就、あるいは光のヨーガの成就――純粋コーザルのヨーガの成就ね、そして最終解脱という道をたどってだよ、最終解脱まで至ることも可能かもしれないよね。

ということは、本来は出家をして修行すること、どうだこれは、最高のカルマになるか、ならないか。――最高のカルマだよね。しかし、わたしたちは最高のカルマを得るためには、例えば最高の車、まあ、今日本で一番高い車は、日本車でだよ、センチュリーだけども、センチュリーを買おうと思えば、それなりの仕事をして、苦しんで、お金を蓄えなきゃならない。そうだね。

それと同じように、シッシャになり、そしてシッシャの中で最高のステージに

到達しようと思えば、どうだ。それなりの功徳、それなりの苦しみを当然しょわなきゃならない。どうだこれは。わかるよね。

しかし、在家には在家のよさがあるよね。それは、例えば妻を持ち、例えば子を持ち、その妻との愛情にひたると。あるいは子供の成長を楽しむと。どうだ。しかしその、刹那的な喜びというものは、逆にわたしたちの最終的な覚醒の妨げにはなるよね。しかしね、在家であってもそれを意識し、極力その喜びを抑え、そして先程も言ったとおり、欲界の最高位にあるシャンバラに生まれ変わることは当然できるよね。どうだ。

◉正しい宗教を選ぶポイントは?

ただここで問題になってくるのがね、いったい、例えば仏教を名乗っている宗教団体はたくさんあるわけだし、あるいは我が法こそ真理だと言っている教団がたくさんあるわけだから、それに対してはどのような択法覚支(ちゃくほうかくし)によってね——択法覚支というのは七つの覚支といって、解脱をするための七つの補助的な働きを

する修行形態があるわけだけど、その中のどのような法を選ぶかという、これを択法覚支といいます――ものがあるわけだけど、選択をするかと。これについては、君たちはどう思うか。

例えば、ある人は今までの仏教の流れで、死んだら葬式をしてもらえばいいんだと考えると。ある人はわたしはキリスト教だと言うと。あるいは、ある人はわたしは新興宗教だけど、ある仏教であると考えると。ね。ある人はオウム真理教であると考えると。この違い、そしてどの法を選ぶか、これはいったい君たちは何だと思うか。どうだ。――カルマだ。そのとおりだ。

では、どのようにしたら最も正しい宗教を選ぶことができると思うか。――真理に対する布施、そうだね。しかし問題になってくるのは、何が真理かわからない場合どうしたらいいと思うか。――ね。ここで出てくるのがエゴだ。エゴと、アンチ・エゴに対する考え方をきちんと持つならば、その答えはおのずから出てくる。例えば、自己を刹那的に喜ばせるような宗教、そして、この現象界に縛りつけるような宗教、これは正しい宗教とはいえない。

なぜならば——ここはポイントだね——、わたしたちは、この現象界に長い生命を得たように錯覚しているけれど、実際はどうだ、瞬間だよね。例えば、三十年生き、四十年生きたとして、その四十年経った段階で、四十年間を振り返ったとき、どうだ。短いと考えるだろ。未来を見ればまだ長いと考えるかもしれない。そして、この現世的なものというのは、わたしたちが次の生に、わたしたちの心を移し替えるとき、何かの影響があると思うか。例えば、大きな会社の社長になったとしよう。その人は、来世、あなたは社長だったから次は天界だとなると思うか、どうだ。

では、ここにやさしいお母さんがいて、子供のためにいろいろ祈願を立て、そして、その子供が一流大学に通ったと。そして命終わったと。あなたは自分の子供を一流大学に通したから天界だとなると思うか。——ならないよね。

つまり、この現象の世界におけるいっさいの執着というものは迷妄であり、それに縛りつける宗教ね、これは仏陀釈迦牟尼も悪魔であると言ってらっしゃる。

◉未来に対する最高の宝物

　では真理の教えとは何かと。ね。まず、平等な目、平静な目、冷静な目を背景として、この現象の世界を、いいかな、ありのままに見つめる。そして、わたしたちを現象の世界から引き離し、欲界・色界・無色界、この三界が見通せるようにすると。あるいは、欲界・色界・無色界に自由自在に行けるようにすると。あるいは、——ねえ、言葉を換えるよ、現象界・アストラル世界・コーザル世界が理解できるようにすると。あるいは、現象界・アストラル世界・コーザル世界ね、ここに、この世界に行き来できるようにすると。ね。

　ではこのメリットは何だ。わたしたちは生・死を通じて、この三つの世界以外、行くことはない。ということは、わたしたちが生を知り、死を知るということはどうだ。これは大きな恩恵か、恩恵ではないか。これは来世に対する最高の土産か、土産じゃないか、どうだ。最高の宝物か、宝物じゃないか。そしてね、この法を聞き、実践する。これが最高の教えであり、最高の修行、最高の宗教だということができる。

仏陀釈迦牟尼は、こう言ってらっしゃる。わたしたちが人間の生を受ける。これは、大変稀なことであると。そしてわたしたちは、ほとんど地獄、あるいは餓鬼の世界に住していると。そして、地獄の何百分の一、あるいは何千分の一、あるいは何万分の一の期間、刹那的に天界を楽しむと。ね。そして、天界に至ったならば、わたしたちはその世界で満足しきり、その喜びというものが、いつか消えるということを理解しないで、消えるときに大きな悲しみに襲われ、そしてまた、苦しみの世界に落ちていくと。

そして、わたしたちが修行できる最もベストな環境、これは人間の世界であると。なぜならば、幸福も少しはあると。思考する力も少しはあると。そして、苦しみはたくさんあると。ね。――そして今、このようにして、わたしたちは人間の世界に生まれていると。ね。そして、最高の法、欲界・色界・無色界――現象界・アストラル世界・コーザル世界を経験できるチャンスに恵まれていると。ね。知恵ある在家信徒の方はそこに気づき、そして真理を体得してほしい。

八九年、今年は成就者百五十名以上を出さなければならない年だ。しかし、百

五十名以上の成就者を出すということは、これはわたし一人の力ではどうすることもできない。シッシャ、あるいは信徒の皆さんがね、一丸となり、そして成就に向けて、オウム真理教号というロケットを全力を上げてくれたならば、その到達点は最終目的である三万人の成就者、世界の救済に結びつくでしょう。

一九八九年一月十八日　富士山総本部にて

◆第三話　死を考えずに、充実した人生はありえない

「高い世界へ――智慧ある魂の生き方」

◉たった一つの道

この人生をどのように生きたらいいか、そしてその正しい答えを見いだすこと、これが真の智慧ある魂の生き方である。このような質問をすると、「多くの生き方、多くの道があっていいはずだ」と答える人も多いかもしれない。しかし、実際は、たった一つの正しい道しか存在しない。それは、どのような生き方かというと、正しいものを具足する、正しいものを身につける生き方ということになる。

この「正しい」という言葉の定義をしっかりと行なわないと、ただ単にいろいろな書物に出てくる、例えば正見・正思惟・正語・正業・正命・正精進・正念・

正定といったような、言葉のトリックにごまかされがちである。よってここで、正しく「正しい」という言葉を定義しよう。ここでいう「正しい」とは、地獄・動物・餓鬼というわたしたちを不幸の世界へいざなう、そういう世界へ生まれ変わらないためのデータを取り除き、そして、少なくとも人間、あるいは人間以上の怒りの天界、そして戯忘の天界、そして神聖天といったような天界のデータを根づかせていくということである。

◉「具足」とは？

例えば例を挙げよう。小さいときからいろいろな情報を入れ、そして結婚の適齢期へと入っていくと。このとき、男性にしろ女性にしろ、対象となる結婚相手を探す。ある人はスタイルのいい人、ある人はグラマーな人と。あるいはある人は知的な人、ある人はお金持ちの人がいいといったような形で規定してくると。これはどういうことかというと、その人が小さいときからいろいろな情報を収集し、そこで喜んだり悲しんだりという繰り返しを行ないながら、その人の性格的

な傾向が決定されていっている、そしてその延長上に対象となるものが現われてくるわけである。

例えば現代のように、性的な情報が氾濫している場合、当然、性的な喜びを与えてくれる対象ということでその対象が限定されよう。そして、例えば女性がお金によって喜ばせてくれるということでお金持ちを選んだ場合、そのお金持ちの性格がねじ曲がっていたら、当然、お金による幸福は得られるかもしれないが、そのほかにその対象から与えられる苦しみというものによって苦しまなければならなくなる。

同じように、小さいころから性欲のデータを繰り返し繰り返し入れ、そして中学、高校、大学と進み、そして性的な遊びに翻弄され、対象となるものと結婚すると。当然その対象は性的なもの、外見が優位となろう。そこで与えられてくれるものは性的快楽であり、そして、その対象となる女性の持っている悪い性格によって苦しまなければならなくなると。

このような傾向の決定、これが仏教の言葉を使うならば「具足」なのである。

具足とはどういう意味かというと、備わり、付け足されたもの、つまり、魂の本質ではなく、その人の傾向によって備わってきたものということになる。

もっとほかの例を挙げよう。例えばある魂が生まれ、その魂の周りの環境がブルー一色であったと。あるいは父や母、兄弟たちがブルーを好んだと。当然、その魂もブルーという色に対して喜びを感じ、そしてそれを何度も何度も修習することによって、愛著、つまりブルーに対する執着が決定すると。それによって、例えばその人の使う色はブルーであると。その人の着る洋服の色はブルーであると。あるいは、その人の買う車の色はブルーであるということになる。これが具足なのである。

そして、この具足を人間界以上の世界へと規定していくこと、これが、この人生を正しく生きる生き方なのである。では、そのためには何をどうなさなければならないのかと。それはまず人間界、憤怒天、あるいは戯忘天といった世界を正確に知り、そこでの神々はどのような特質を備えているかということを理解し、そして完全に自分のものになるまで修習、つまり繰り返し繰り返しそれをデータ

として根づかせることである。それをなすことによってのみ、わたしたちはその世界へ生まれ変わることができる。

これはちょうど、全く泳ぎのできなかった者が、水泳のうまい人のフォームを見、呼吸の仕方を見、そしてそれをまねて、泳げるようになるのと同じである。つまり、高い世界へ至った魂が、どのような生き方をし、どのような考え方を持ち、そして、どのような実践をしたかということを正確に理解することにより、そして、それをまねることにより、わたしたちも高い世界へ生まれることができるわけである。

また、これと同じように、仏陀、つまり目覚めた人、この欲界それから形状界、そこから非形状界という、この三つの世界を完全に知り自在となるためには、同じようにどのような知識を得、どのような傾向を持ち、そして、どのような修習をなしたらいいかということ、これをしっかりと学び、実践することにより、同じように覚者の境地へと到達するわけである。

◉二つの土台――布施・持戒

では、高い世界へ生まれ変わるためにはいったいどのようにしたらいいのかと。まず仏典をひも解いてみよう。これは信徒の皆さんには『マハーヤーナ』（当時の教団機関誌）にも載っていたとおり、まず福田である聖なる八支の道、あるいは十の徹底、あるいは六つの徹底といったものを徹底的に行なっている者たちに対しての布施、奉仕、そしてわたしたちを悪趣へと至らせないための持戒を守るということ、この二つが土台となろう。

ではこの二つはいったいどのような形でわたしたちを上の世界へ結びつけてくれるのかというと、まず、布施の徹底というものは、わたしたちの心における貪り、この貪りの傾向を弱めるがゆえに餓鬼の世界への転生をなくすということになる。そして、奉仕の徹底は自己の利益、他の利益という小さな枠組ではなく、大きな枠組でものを見ることができるようになるという心を培い、形成することになり、これも同じように餓鬼の世界への転生を捨断することになる。

では、持戒についてはどうだろうかと。例えば、殺生をしないという持戒があ

る。この殺生をしないという持戒は、その殺生の背景にある邪悪な心、この邪悪な心を捨断する。邪悪な心を捨断するがゆえに、当然、地獄への道をシャットアウトすることになる。

では、偸盗についてはどうであろうか。この偸盗、盗みというのは先程も述べた貪りの心を増大する。貪りの心というものが背景となると。よってこれをシャットアウトすることにより、餓鬼の世界への転生はなくなる。

では、意味のないセックス、これについてはどうであろうかと。これは動物の世界を見ればよくわかることだが、要するに盛り、つまりエネルギーの変化による盛り、これに感応し、対象はどうでもよくなり、お互いにオスとメスが求め合うと。そして交わると。人間界においても同じことがいえていて、性欲のデータを入れると、それに刺激され、交わると。このような傾向を強めていると、来世は動物へ落ちると。よって、愛のない性的交わりを捨断すると。これは動物の世界への転生を防ぐ道であると。

では、次の妄語、つまり嘘、これについてのシャットアウト。これはわたした

ちにどのような傾向を与えてくれるだろうかと。これは、嘘というものはもともと自己の心に覆いをかぶせる作業である。この嘘の修習をすることにより対象に対する認識の仕方が甘くなり、対象を認識できないだけではなく、自分自身も認識できなくなると。よって、この傾向をシャットアウトすることは、本質的な無智である動物の世界のシャットアウト、そして意図的な無智である天界のシャットアウトということになる。

では最後の、酒を飲まない、あるいはタバコを吸わない、あるいはマリファナを吸わない、ＬＳＤをやらない、シンナー遊びをやらないといったような、薬物による心を散乱にするものから解放するということはいったいどういうことであろうかと。これはわたしたちの集中力を強め、そして思念の力を強め、思念優位である怒りの天界、あるいは戯忘の天界へと転生し、あるいは貪りが完全になくなることによって神聖天へと転生することとなると。この布施・奉仕・持戒の実践は、よってわたしたちを高い世界へと導くことになる。

◉貪・瞋・癡からの解放――開かれる天への道

では、これらの土台をもっと強くするためには、あるいは、これらの土台をもっと大きくするためにはどのようにしたらいいのかと。それは正記憶修習であると。では、いったい何を記憶修習するんだと。それは、この欲六界の構成をしっかりと知ること、そして、自分が生まれ変わりたい世界を規定し、そこに思念を加え、そしてそのデータを何度も何度も取り込むことと。

例えば仏陀に至るためには、まず迷妄。迷妄をシャットアウトするためには六識をシャットアウトすると。六識をシャットアウトするためには名色をシャットアウトしなきゃならないと。名色とは何かというと五蘊であると。五蘊をシャットアウトするためには、当然、六つの感覚器官、これをシャットアウトしなきゃならないと。六つの感覚器官をシャットアウトするためには、当然、外界とシャットアウトしなきゃならないと。

これらをなすことにより、まず「好む」という感情が止滅すると。好むという感情が止滅することにより、とらわれの心が止滅する。とらわれの心が止滅する

がゆえに、貪りが止滅し、あるいはその対称である嫌悪が止滅すると。そしてこの対称である貪り、嫌悪が止滅するがゆえに欲界の転生がないと。欲界での転生がなくなればどうなるかと。心は神聖となり、三昧に入り、そして神聖天へと転生することになる。神聖天へと転生した場合、心の乱れが生じない限り、その神聖天でね、永遠に近いぐらい長きにわたって幸福な時を過ごすことができると。

例えばこのように「十二縁起の理法」一つを繰り返し繰り返し行なうだけで自分自身の心に生じてくる迷妄、これは無智だね、要するに。嫌悪、これは邪悪な心だね。そして愛著（あいじゃく）、つまり対象に対する必要以上の情熱、これは貪りの裏表であるわけだけど、このような感情を生起させることが、つまり、起き上がらせることが自分にとって決してプラスではないんだということが認識できるようになる。そして、認識できるようになれば徐々にその傾向は弱まり、止まっていくと。止まっていくがゆえにこの貪・瞋・癡の最も強い地獄、これは嫌悪だね。動物、これは迷妄、無智だね。そして貪りという餓鬼、この三つから解放され、おのずと人間、憤怒天、戯忘天、神聖天、あるいは光音天、あるいは色究竟天（しきくぎょうてん）、あるい

は非形状界、そしてマハー・ニルヴァーナへと入っていくこととなると。

では、具体的にどのようなものをしっかりと具足すれば、その到達点に早く到達できるのかと。

◉「正記憶修習」こそ到達点への早道

これは、まず第一は乗り物の選択ということになる。つまり、自分たちを真理によって、あるいはタントラ・ヴァジラヤーナの仏法によってその乗り物に乗っかり、悪業をできるだけ早く消滅していただき、早く対象となる世界へと没入するんだと考える人は、まず帰依の修行から始めなければならない。当然、この帰依の修行のやり方には、帰依マントラやあるいは立位礼拝もあると。しかし、それはあくまでも、わたしはその船に乗りたいと、わたしはその船に乗りますという宣誓であって、実際乗ったことにはならないと。

では、何をもって乗ったことになるかと。これは実際、その対象の教えをしっかりと学び、そして奉仕・布施の実践を行なうことによって、その乗り物に乗っ

たということになる。これはどういうことかというと、その乗り物の構造がどういうものであって、そして、その乗り物はどういうふうな方向によって、対象である天界や、あるいはマハー・ニルヴァーナへと導いてくれるかというマップを、地図をね、しっかりと理解すると。そして、お布施というのは、要するにチケットを買うと、結びつきを強めるということが目的となると。

そして、そこへ乗ったなら、次はその乗り物のスピードを加速すると。では、どのようにしたら乗り物のスピードを加速することができるのかと。これは、その教えを何度も何度も記憶するということである。よく「わたしは八正道を知ってるよ」、よく「わたしは七覚支を知ってるよ」と言う人がいる。言ってごらん。「正見解、正思惟、正語、正行為、正生活、ね、正記憶修習、正精進、それから正サマディです」と。ああそうかと、よく知ってるねと、ではその意味は？「意味ですか？ 正見解、うんぬん」と。「正思惟、うんぬん」と説明をなされると。実践できてるのかなと。「いや実践はできてないです」と。「実践しようと思ってるんだけどできないんです」と。この「知ってる」から「実践しようと思ってて

るんだけどできないんです」までの距離、これはかなりのものがある。

では、どのようにしたらその距離を縮めることができるのかというと、そこで登場するのが正記憶修習である。つまり、データを一度入れ記憶するんではなく、何度も何度もそのデータを入れ、自分のものにしてしまうと。そして、もう一歩進めて自分自身の傾向を分析し、その正記憶修習のデータと自分自身の身の行ない、口の行ない、心の働きと対照し、そして自分の傾向を完全に弱め、高い世界への道筋へとベクトルの向きを変えると。そして最終的には、その記憶修習し、思索したものを土台とし、身・口・意における実践を行なうと。これをなすならば、必ずやいかなる人でも、今、今生においてどんなに悪業を積んだ人でも、時間さえかければ、怒りの世界、あるいは戯忘の世界、あるいは神聖天の世界へと転生することができるはずである。

◉四預流支から具足、そして救済へ

人は死ぬ、必ず死ぬ、絶対死ぬ、死は避けられない。特に、今オウム真理教の

教団が大きくなってきて、救済の対象が死にいく人、あるいは大変重たい病にかかっている人等に対象が移ってきているように思われる。その際、しっかりと教義を皆さんが根づかせたならば、その教義をその方々に説いてあげるだけで大いなる功徳を積むことになろう。

よって、今日この日を境にね、しっかりと正記憶修習、そして、それにのっとり思索、そして実践というプロセスを歩いていただきたいと思います。そして、高い世界へのデータを具足する。

今日はこの四預流支から具足と、ここの部分だけをね、皆さんが理解し記憶していただいたら、今日の講話の目的は十分に果たせたと思います。

一九九一年三月十日　名古屋にて

◆第四話　布施・持戒に秘められた意義――データのキャッチボール

「カルマの正しい変換」

◉真理の大陸インドにて

実は、五月の後半から約、弟子を三十名引き連れインドへ行ってきました。帰依信徒の皆さんもよく知ってのとおり、インドはジャンブ州、ジャンブ大陸です。このジャンブ大陸の特徴は、「バルドーのイニシエーション」や、あるいは「死と転生」を見られた方ならご理解していただいてると思いますが、記憶修習、記憶実践、つまり、真理の法がまだ残っている大陸ということになっています。

確かに、今回インドに行ってわたしの感じたことは、日本よりサットヴァの光が強いなと。そしてカルマの顕現、つまり悪因に対する悪果、善因に対する善果

が、早くはっきりと現われる大陸だなということを認識しました。

一つ面白い例をお話ししましょう。これは、今北海道支部を担当しているラーフラ師の話ですが、彼は多くの信徒の方と接し、そしてカルマを受け、体調、心の状態があまりいい状態ではない状態でインドに行きました。

そして、彼はそのインドで肉体的、精神的カルマの解放を受け、約十日間の間、腹痛、下痢、熱、それから足の痛み等で苦しみました。しかし、それから解放される段階で、少しずつ心の状態、そして肉体の状態が良くなり、功徳の部分だけが優位となり、また修行に対するやる気、つまり求道心が、そして瞑想状態が回復していっています。

彼に限らず、今回わたしと一緒に行ったメンバーは、それぞれがそれぞれのステージに合わせてカルマの開放を経験しています。

◉とらわれが招く不幸な転生

一般に日本人の感覚は、今さえよければ、あるいは目の前さえ楽しければと考

えてしまいがちである。確かにこれは、わたしたちに瞬間瞬間の幻影を与えてくれる。例えばお金持ちになれば、一見豊かになったかのような心の感覚をわたしたちは経験します。しかし実際、わたしたちの本質は何も変わらず、そして、例えばお金や、例えば異性や、例えば他の多くのとらわれで、わたしたちは心を見失ってしまいます。そして、そこで培ったいろいろな経験が、わたしたちを正しくない世界へといざなうわけです。

◉地獄への転生の三つのパターン

例えば例を挙げるならば、嫌悪という感情を修習したとしましょう。この嫌悪という感情は、修習により対象に対する特定が生起し、そしてその対象に引きずられるかのように地獄へとわたしたちを導きます。

例えばその例としては、わたしたちがネズミを見、ネズミは敵だと、その修習をすると。あるいはゴキブリを見、ゴキブリは敵だと修習すると。すると、わたしたちが死というものを境にゴキブリやネズミが出てくると。そして、それを殺

そうと追いかけ、気づいたときには、もうそこは地獄であると。

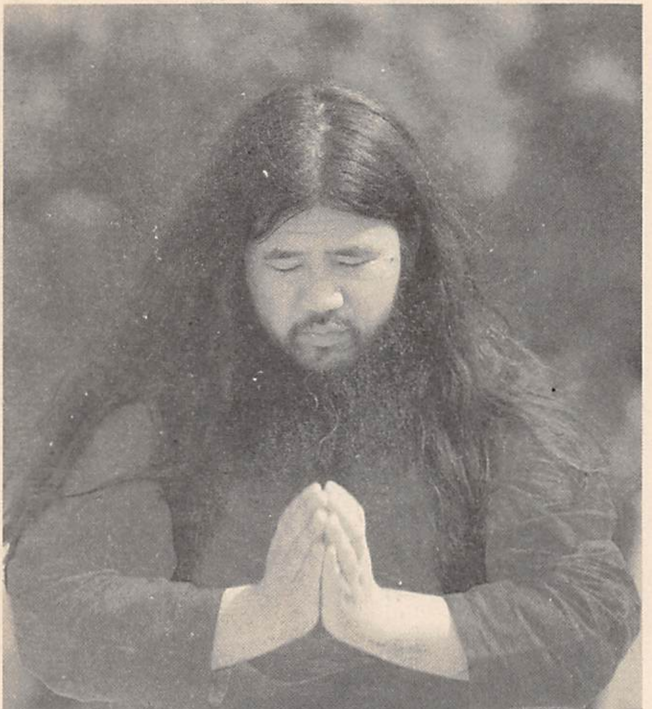
もちろんこういう空――つまり非形状界のバルドーからいきなり転生する地獄の場合、期間も長いですし、それから、あまりその状態で起きるということはありません。なぜかというと、この非形状界のバルドーというものは、サットヴァの性質と、それから嫌悪――邪悪心の性質と、この二つが混ざり合った場合のみ、決定される転生だからです。

一般にわたしたちは、無智というものを根本としています。その無智は、根本無明の無智ではなく動物的な無智です。ですから、曖昧、そして嫌悪といった二つの状態があり、まず非形状界のバルドーを経験し、そして形状界のバルドーを経験し、そして欲界のバルドーを経験し、地獄の光へと導かれるわけです。ですから、もっと具体的かつリアルな体験をしながら地獄へと導かれることになります。

例えば、急に雪山が現われると。そして、その雪山に自分自身は存在し、固定されると。寒くて寒くてたまらないと。そこで火を欲すると。目の前に炎が見え

てくると。わたしは雪山から解放されたと思い、炎に飛び込んだ瞬間、地獄へ落ちると。

あるいは、夜摩天(やまてん)――オウム真理教の言葉を使うならば支配流転双生児天――この夜摩天がわたしたちの前に大王の形をとり現われ、獄卒を従え、そして、そこでわたしたちのカルマの善因、あるいは悪因を、そして善果・悪果を、白い石と黒い石によって数えます。そして、わたしたちに慎重に天使の質問をします。この天使の質問とは何かというと、わたしたちが生について、あるいは老について、あるいは病について、あるいは死について、あるいはこの現世の苦について、なぜあなた方はそれを理解しなかったのかと。そして、それを理解し、真理の実践をなしていたならば地獄へ落ちることはなかったのに。――このような話をしながら、対象である地獄へ導かれる、無智なる衆生を地獄へと引き立てます。その地獄は、わたしたちの心の現われですから、例えば、煮られたり、焼かれたり、刺されたり、刻まれたりといった状態が経験されます。



◉仏典の描写に見る戦慄の地獄

わたしは以前、地獄へ落ちる一つの因として、魚を釣る場合が挙げられるということを挙げたことがあります。そして『南伝大蔵経』の中の「天使経」中に、それと同じ記述があると。つまり、地獄のある段階で、そこには川があると。そしてその川へ落ちると。その川は、アルカリ水でできた川であると。そしてその川に落ちていると、そこでは釣り針が垂られていて、そして釣り針で釣り上げられると。すくい上げられると。そして「何か欲しいものはあるか」と。「おなかが空きました」と言ったら、次は鉄の玉を口から放り込み、そして、そのドロドロに溶けて鉄の玉によって、内臓もろとも肛門から出ると。ところがわたしたちのカルマが切れるまでは、その身体は死にませんと。その次は、ドロドロと溶けた銅の金属が流し込まれると。

まあこういう記述があるわけだけど、これは釣りのカルマであると。あるいは先程述べたとおり、魚や、あるいは他の生命を生きたまま煮、あるいは生きたまま捕ってきて、殺したカルマであると。

◉この世に幸福はない!?

ではなぜ、こういうことが起きるのでしょうか。それは、対象に対して苦しみを与えた場合、あるいは対象に対して無智を与えた場合、その対象の心の状態がそのままプリントされるからです。

これはちょうど、例えばわたしが信徒のある方を殴ったとすると。そうすると信徒のある方の苦しみというボールを、わたしが自分のコーザルにキャッチしたのと同じになる。例えばあなた方が小動物を殺した場合、その小動物の苦しみをキャッチした苦しみというボールをちょうどキャッチし、自分の胸にしまい込んだのと同じ形になると。これがカルマの理法です。

ですから、サキャ神賢がこの世は苦であると。いくらわたしたちが楽を求め、幸福に生きようとしたとしても、そこには幸福がないんだよとおっしゃったのは、このようにカルマを見切ると、いっさいの行為そのものが苦を生起させるものなんだということを、表わすからです。

では、いったい何をなしたならば幸福になるのでしょうか。幸福になる要因と

いうのは、他人を幸福にすること、他人を喜ばせること、あるいは衆生を喜ばせることです。

まず皆さんの感覚では、人とそれから他の生き物とは別個であるという認識があるでしょう。ですから、皆さんの理解おできになる範囲、例えば人間から優しくしてあげる、あるいは自分の飼っているペットから優しくしてあげる。そして、その優しさの布施をなすことにより、相手の喜びというものをキャッチすると。そして、その喜びをたくさんたくさん蓄えると。そして、たくさんたくさん蓄えた人、その人が天へ至るわけです。

◉喜びのデータを蓄積せよ

では、仏教の基本である布施、そして持戒について、これを検討してみましょう。まず財施については、物によって他人を喜ばせると。あるいは物によって自分自身が喜ぶと。こういう意味合いがあります。ここに財を布施すると。すると、布施された対象はそれを喜ぶと。喜んだというそのボールが、自分のコーザルの

データとして蓄積されると。

例えば、安心施はどうかというと、同じように相手に安らぎを与えると。安らぎを与えると、安らぎを与えられた対象は喜び、その喜んだというボールが自分のコーザルに蓄えられると。

では真理施はどうかと。迷妄に迷っている魂に真理を説くと。そうするとその魂が、ハッと気づくと。気づいて、そして喜んだというボールが自分に蓄えられると。こういうメリットがあるわけです。

では、皆さんが基本的になさなければならない五戒はどうでしょうか。これも同じように、例えば殺生をしないで生き物を慈しむと。そうすると、慈しまれた対象である生き物たちは、そこで喜ぶと。喜ぶと、その喜びが自分のコーザルに蓄えられると。

これは、偸盗、あるいは邪淫、妄語、これについても、もしそれをなさなければ、同じようにカルマの正しい変換が起き、あなた方の心は豊かになるわけです。

そしてあなた方が、例えば身体が歓喜、つまり絶えずエクスタシーの状態で赤

い光が射してきたならば、それはあなた方がナーガの世界、つまり龍の世界へと転生することを表わします。例えば、ブルーの光が射してきたならば、それはあなた方がガンダルヴァの世界へ転生することを表わします。例えば白い純粋な光が射してきたならば、あなた方が三十三欲神天へ転生することを表わします。例えば、ちょっと濁った赤紫の光が射してきたならば、あなた方が、憤怒天へ転生することを表わします。

◉限られた人生を有意義に

このような形で、あなた方が悪法を断じ、そして善法を増大させるならば、あなた方には大きな利益があるでしょう。わたしはインドに約十回行きましたが、日本人は物質的に幸せだと思います。これ以上物質を求める必要はないと。そして、このクル州であるこの日本、つまり功徳の果報であるこの日本で徳を使い果たし、天界から落ちるように三悪趣へと落ちていただきたくないと思います。そのためには、日ごろから教義をしっかり学び、そして、その教義にのっとり考え、

疑問があればそれを高いステージの魂に聞き、そして、それを絶えず解決させ日々前進すると。その修行をしていただきたいと思います。

人間の寿命は長いようで大変短い。わたしは六歳のときからいつも死を考えていました。「死にたくない、死にたくない、この人間の寿命って、なんて短いんだろう」と。それは、わたしの前生やあるいは前々生が、この人間の生よりずっと長い経験をしているからです。

わたしは相当の昔、相当の昔といっても、皆さんの想像のつかないような何百カルパ、何千カルパ、何万カルパの昔から、修行しています。そして今、皆さんにわたしの知っている真実の一部をお話ししたわけです。真剣に教学をし、瞑想をし、修行していただきたいと思います。

一九九一年六月十六日　東京にて

◆第五話　来世を失敗しないために

「高い世界への転生の条件」

◉論理的にわかる転生先

この世を南伝的に分析すると、地獄・動物・餓鬼・人間、そして、阿修羅・天界ということになる。この一つ一つのカルマは何かというと、嫌悪による殺生、あるいは嫌悪による間引きといったようなものが地獄へと結びつき、あるいは妥協、あるいは無智、純粋に無智といったものが、動物へと結びつくと。あるいは火元素と関連し大いに貪る、そして人にものを施さないといった心の働き、これは餓鬼の世界へと結びつくと。では、人間はどうかというと、この三つの条件をクリアし、そして布施の実践をしている人ということになる。

だから、だれが、あるいはどの魂が、憤怒天へと生まれ変わり、どの魂が戯忘天界へと生まれ変わり、あるいは、どの魂が梵天界へと生まれ変わるのであろうかと。

仏教は、一言で言うならば数学であるとわたしは考えます。つまり、論理的にスパッとこの世界観を割り切ってしまうと。

では阿修羅とはどういう世界かと。これは、大いに功徳を積むと。それは人間に生まれ変わる以上の功徳を積んでる者が、戒律を守らず行く世界であると。ではなぜ、戒律を守らず行く世界なのかというと、そこには当然、まだ心のけがれ、闘争心だとか、あるいは嫉妬心だとかいったようなものが残っていると。この魂は、まぎれもなく阿修羅の世界へと転生します。

ではそういう心のカルマも含めて、十の戒めを守る魂。これはどこへ転生するのかと。しかしまだ、貪りが残っている魂はどこに転生するんだと。これは、戯忘天界へと転生します。

◉ケーマー比丘尼の転生

わたしは、カール・リンポチェ(故人。チベット仏教、カギュ派の総師だった)、あるいはその他のラマにこういう話を聞いたことがあります。それは、次の生天界へ生まれても、その次の生は、例えば地獄であると。あるいは餓鬼であると。そしてオウム真理教の教えも、これにのっとって展開していました。

しかし、『南伝大蔵経』の研究、あるいはわたしたちの修行が進むにつれて、もう一つ新しいことがわかりました。それは何かというと、その教えも真理であると。しかしもっと崇高な教えがあると。

それは、例えば仏陀釈迦牟尼の比丘尼(びくに)第一といわれるケーマー、このケーマーが、二万年ね、その当時のカッサパ仏を供養し、そして一生懸命功徳を積み戒律を守ったと。その結果、次の生ではトウ利天、三十三天界へ生まれ変わったと。そして三十三天界でも、ひたすら神々の王であるインドラを供養したと。それによって夜摩天へ生まれ変わったと。夜摩天でもひたすらその中心である夜摩神を供養し、それによってツシタ天——つまり兜率天だね——へと生まれ変わったと。

そして、そのツシタ天でもひたすらツシタの王を供養したと。それによって、次は楽変化天へ生まれ変わったと。楽変化天でもひたすら楽変化天の王を供養したと。それによって、他化自在天へ生まれ変わったと。そして、他化自在天でもひたすら供養したと。

それによって、人間界へと生まれ変わり、ビンビサーラ王の妃となり、仏陀釈迦牟尼と出会い、わずか数カ月で——正確には七カ月だったかな——解脱し、そして比丘尼第一、大慧、大きな智慧第一といわれる比丘尼となったと。そして、多くの魂の、称賛の対象となったと。そして、梵天界を越し、マハー・ニルヴァーナへと入っていったという逸話があります。

◉転生を左右する貪りの有無

これは何を意味するのかというと、わたしたちがたゆまず努力し続ける、精進し続けることによって、わたしたちの五蘊の形成が、人間から徐々に徐々に阿修羅へと移行し、戒律を守ることによって、憤怒天から戯忘天へと移行し、そして、

覚者と巡り合うことによって、梵天界へと移行するということである。
では梵天界と欲六界との差は何だといったら、それは貪りが生じているかどうかであると。つまり、離貪できているかどうかであると。生きていくための最低限のもので満足し、そして内側を見つめ、多くの魂に多くの福利を与える者、これは梵天界へと生まれ変わり、ブラフマンとなると。あるいは梵天界の最高の世界である色究竟天まで生まれ変わることができると。
そして、貪りを離れ、生命に対する、存在に対する、全く頓着を離れたとき、二元の世界から解放されます。そのとき空間無辺境、識別無辺境、無所有境、非認知非非認知境という空の経験をします。ここでいっている色界というのは、色の世界と考えるより、形状、美しい形のある世界、ヤントラの世界と考えるべきだとわたしは考えています。
そして、その空の境地を通り越した後、マハー・ニルヴァーナ、絶対的な滅尽の境地へと到達します。
今、あなた方は財施・法施・安心施をはじめとする布施、そして、ある人は持

戒を守り、ある人は持戒を守っていない状態で修行を続けているでしょう。ここで、瞑想修行、ダルマの修行を行なうことにより、離貪し、そして生命に対する愛着を断ち、早く空の境地に到達してください。

無色界の神々の寿命は、計り知れないといわれています。今あなた方がここで苦しんでることは、あなた方が来世三悪趣へ落ちるカルマを、前もって苦しんでいるにすぎない。よって、大いに苦しみ、大いに修行し、乗り越え、本当の自由・幸福・歓喜を得てほしいと思います。そして少なくとも、人間、あるいは阿修羅、あるいは戯忘天界へ生まれ変わってください。しっかりと修行するように。いいね。

はい、では今日の講話はこれで終わります。

一九九一年一月十日　富士山総本部にて

※オウム真理教では、本来の意味を正確に表わしていない既製の仏教用語は用いず、パーリ語原典を忠実に翻訳し、吟味した結果、決定した訳語を使っています。以下に、代表的な言葉の対比表を掲げますので参照してください。また、仏教・ヨーガの言語対比表も参考までに掲載しました。

◆言語対比表

欲界→愛欲界
無間地獄→超期間激苦地獄
叫喚地獄→号叫激苦地獄
鉢特摩地獄→紅蓮華のような状態になる
　　激苦地獄
阿修羅→不飲酒天
憤怒天→意識堕落天
戯忘天→戯れ堕落天
地居天→地上愛欲神天
四天王衆天→四大王天
　持国天→堅固王国天
　増長天→成長天
　広目天→統治変化自在天空天
　毘沙門天、多聞天→守庶民外傷天
　夜叉→人食い鬼神
忉利天→三十三天
　帝釈天→有能神
夜摩天→支配流転双生児天
　閻魔王→支配流転双生児王
兜率天→除冷淡天
楽変化天、化楽天→創造満足天

他化自在天→為他神以神通創造欲望満足従事天

悪魔→破滅天

色界→形状界

梵天→神聖天

梵衆天→神聖衆愛欲神天

梵輔天→神聖臣天

大梵天→大神聖天

浄天→美天

遍浄天→総美愛欲本質神天

広果天→偉大果報愛欲本質神天

浄居天→清潔居住天

無煩天→超空間愛欲神天

無熱天→超燃焼愛欲神天

善現天→善安楽愛欲神天

善見天→善現象愛欲神天

色究竟天→超越童子愛欲本質神天

無色界→非形状界

空無辺処→空間無辺境

識無辺処→識別無辺境

無所有処→無所有境

非想非非想処→非認知非非認知境

想受滅→認知経験滅尽

須弥山→完全無欠山

東勝身洲→東の高貴なる身体を得る大陸

南贍部洲、閻浮提→南のバラリンゴの大陸

西牛貨洲→西の願いがかなう牛の大陸
北倶盧洲→北の悪しき音の大陸

成劫→再生期
住劫→継続期
壊劫→還元期

釈迦牟尼→サキャ神賢
如来→真理勝者
応供→供養値魂
正等覚→最上正覚者
明行足→智徳成就者
善逝→最上善逝
世間解→世間解（変更なし）
無上士→無上士（変更なし）

調御丈夫→丈夫調御者
天人師→天人師（変更なし）
仏陀→覚者
世尊→世尊（変更なし）

菩薩→到達真智運命魂
比丘→向煩悩滅尽多学男
比丘尼→向煩悩滅尽多学女
優婆塞→帰依信男
優婆夷→帰依信女
僧伽→出家教団
長老→高弟
声聞→多学の弟子
沙門→出家修行者
沙弥→少年出家者

遊行者→托鉢修行者
バラモン→祭司
クシャトリヤ→武人
ヴァイシャ→庶民
シュードラ→奴隷

四双八輩→四対の人々・八つの宗教的特性を持つ人々
預流→真理の流れに入ること
一来→(愛欲界に)一度だけ再生すること
不還→不還(変更なし)
阿羅漢→供養値魂
四預流支→四つの真理の流れに入る段階

四聖諦→四つの絶対的真理
苦聖諦→苦しみの絶対的真理
集聖諦→苦しみの生起の絶対的真理
滅聖諦→苦しみの滅尽の絶対的真理
道聖諦→苦しみの滅尽に至る方法の絶対的真理

四念処→四つの記憶修習述

四正断、四正勤→四つの正しい努力

四如意足→四つの如意の基礎
欲如意足→決意如意の基礎
精進如意足→精進如意の基礎
心如意足→思念如意の基礎

観如意足→観慧如意の基礎

五根→五つの潜在性
信根→信の潜在性
精進根→精進の潜在性
念根→記憶修習の潜在性
定根→サマディの潜在性
慧根→智慧の潜在性

五力→五つの能力
信力→信の能力
精進力→精進の能力
念力→記憶修習の能力
定力→サマディの能力
慧力→智慧の能力

七覚支→七つの覚醒段階
念覚支→記憶修習覚醒段階
択法覚支→検討覚醒段階
精進覚支→精進覚醒段階
喜覚支→喜覚醒段階
軽安覚支→静寂覚醒段階
定覚支→サマディ覚醒段階
捨覚支→無頓着覚醒段階

八正道→聖なる八段階の道
正見→正見解
正思惟→正思惟（変更なし）
正語→正語（変更なし）
正業→正行為
正命→正生活

正精進→正奮闘
正念→正記憶修習
正定→正サマディ

三苦→三つの苦しみの本質
苦苦→苦しみの苦しみの本質
行苦→悪い構成要素の苦しみの本質
壊苦→悪化の苦しみの本質

三受→三つの感覚
楽受→楽の感覚
苦受→苦しみの感覚
不苦不楽受→不苦不楽の感覚

四無量心
慈→聖慈愛
悲→聖哀れみ
喜→聖称賛
捨→聖無頓着

五取蘊→五つのとらわれの集積
色取蘊→形状-容姿のとらわれの集積
受取蘊→感覚のとらわれの集積
想取蘊→表象のとらわれの集積
行取蘊→経験の構成のとらわれの集積
識取蘊→識別のとらわれの集積

五蓋→五つの障害
貪欲蓋→愛欲の衝動による障害
瞋恚蓋→害心による障害

惛眠蓋→頑固と愚鈍による障害
掉挙蓋→興奮と後悔による障害
疑蓋→疑念による障害

五妙欲→五つの愛欲の構成部分
色→形状-容姿
声→声（変更なし）
香→香り
味→味（変更なし）
触→接触

五下分結→五つの下位に結びつけるきずな
有身見→有身謬見
疑→疑念
戒禁取→戒誓のとらわれ
貪欲→愛欲の衝動
瞋恚→害心

五上分結→五つの上位に結びつけるきずな
色貪→形状愛著
無色貪→非形状愛著
慢→慢（変更なし）
掉挙→興奮
無明→非神秘力

八解脱→八つの離解脱
八勝処→八つの克服境
十遍処→十全境
十波羅蜜→十の徹底

十二縁起の法→十二の条件生起の段階
無明→非神秘力
行→経験の構成
識→識別
名色→心の要素-形状-容姿
六処→六つの感覚要素と対象
触→接触
受→感覚
愛→渇愛
取→とらわれ
有→生存
生→出生
苦→苦しみ
信→信（変更なし）
悦→歓喜

喜→喜（変更なし）
軽安→静寂
楽→楽（変更なし）
三昧→サマディ
如実知見→如実精通見解
遠離→現世否定
離貪→離愛著
解脱→離解脱

涅槃→煩悩破壊
般涅槃→完全煩悩破壊
中般涅槃→中完全煩悩破壊
生般涅槃→減少完全煩悩破壊
無行般涅槃→形状界にて経験の構成がなく功徳の果報を受けつつあ

る完全煩悩破壊
有行般涅槃→形状界にて経験の構成があり真理の実践による完全煩悩破壊

一種者→一種者（変更なし）

家家者→徳の高い家から家へと転生する者

極七返→最高七回流転者

正智→正精通

正解脱→正離解脱

心解脱→心の離解脱

慧解脱→智慧の離解脱

殺生→殺生（変更なし）

偸盗→与えられないものを強奪すること

邪淫→愛欲における邪悪な行為

妄語→嘘

綺語→軽薄語

悪口→悪口（変更なし）

両舌→中傷

貪→愛著

瞋→邪悪心

癡→迷妄

愁→不運な出来事

悲→悲嘆

苦→苦しみ

憂→激痛

悩→悩み

五趣(ごしゅ)→五(いっ)つの方向(ほうこう)
善趣(ぜんしゅ)→幸福(こうふく)に向(む)かうこと
悪趣(あくしゅ)→悲痛(ひつう)に向(む)かうこと
カルマ→要素(ようそ)の蓄積(ちくせき)
法(ほう)→法則(ほうそく)
梵行(ぼんぎょう)→神聖行(しんせいぎょう)
布薩(ふさつ)→戒誓行(かいせいぎょう)
波羅提木叉(はらだいもくしゃ)→約束維持解放(やくそくいじかいほう)
頭陀(ずだ)→断修行障礙(だんしゅぎょうしょうげ)
袈裟衣(けさい)→赤(あか)っぽい黄色(きいろ)の衣(ころも)
衆生(しゅじょう)→生命体(せいめいたい)
四大種(しだいしゅ)→四大元素(しだいげんそ)
本生経(ほんじょうきょう)→輪廻転生談(りんねてんしょうだん)

◆仏教・ヨーガ　言語対比表

愛欲界(あいよくかい)—現象界(げんしょうかい)
形状界(けいじょうかい)—アストラル世界(せかい)
非形状界(ひけいじょうかい)—コーザル世界(せかい)
愛著(あいじゃく)—サットヴァ
邪悪心(じゃあくしん)—ラジャス
迷妄(めいもう)—タマス

仏陀の智慧が光を放ち混迷の時代を照射する

INITIATION

イニシエーション

麻原彰晃著

この名著はすべてを語っていた！

「解脱」「悟り」のプロセスを細やかに説き明かし、
最高の修行法を伝授する。
本来、選ばれた弟子にのみ明かされる秘儀——
ヨーガ・仏教の奥儀を極めた修行の正しさは、
誕生した三五〇名の解脱者が証明する。
さらに、自民党の大勝と大敗、円高の進行、
農作物輸入自由化など、
今日の世界と日本の動向を正確に予言している、
驚くべき記述の数々！

◎「解脱」「悟り」の真実／現代の仏陀麻原彰晃が最高の修行法を公開。

◎タントラ・イニシエーションの全貌／チベット密教・ゲールク派とオウムの秘儀を比較する。

◎確実に核戦争だ！／日本と世界の近未来を予言する。

◎総勢三十一名の体験談／「クンダリニーが覚醒する」「過去世が甦る」「悟りのプロセス」など、これが修行プロセスと霊的ステージの真実だ。



武田　健さん（東京都／学生）
「末法の時代は終わった」ということを確実に感じさせる本である。

松岡謙次さん（愛媛県／警備員）
読めば読むほど、「頑張ろう、やるぞ」と思わせるような素晴らしい本です。

山本　勇さん（石川県／会社員）
解脱するまでの心の状態が、多くの例を挙げてわかりやすく書いてある。

大森恵子さん（山口県／店員）
他の書では得られない絶対なる真理に触れることができた。

武田葉子さん（熊本県／主婦）
「人間として最高の、最終の目的は何か」ということがはっきり示されています。

本間智加子さん（東京都／経理事務）
宗教に対する偏見がいっぺんに吹き飛んでしまいました。

定価2163円　ご注文は書店にてお願いいたします。直接弊社にお申し込みの場合は下記まで。(送料300円)
オウム出版　〒154　東京都世田谷区世田谷2-8-17　電話03(3439)6043　郵便振替　東京2-109325

マハーヤーナ・スートラ

M A H A Y A N A S U T R A

麻原彰晃 著

解脱――それは光を超えて

魂は彷徨する、自由を求めて。
魂は飛翔した、歓喜の世界へ!!



解脱それは、一言では表現することのできない深遠で、広大な世界。今まで、曖昧に定義されていた解脱の段階と状態について、この本はわかりやすく解き明かします。真理の最終地点を目指すあなたにとって、欠くことのできない宝書。

B6判296ページ(巻頭カラー8ページ) 定価3090円

●ご注文は書店にてお願いいたします。直接弊社にお申し込みの場合は下記まで。

オウム出版 (本　社) 〒154 東京都世田谷区世田谷2-8-17
TEL 03(3439)6043 郵便振替 東京2-109325
(営業部) 〒168 東京都杉並区宮前3-8-11
TEL 03(5370)1598

PART-7
仏教真理・八正道

最終解脱者のみが語り得る八正道の真の意味合い。高い解脱・悟りへ至る道を、具体的に、現代でもすぐに実践できる方法として説き明かす。巻末に「道に関係づけられた経典（道相応）」の現代語訳も掲載。

B６判　定価８００円

PART-8
仏教真理　六波羅蜜

大乗仏教における在家信徒の最も重要な修行法の一つ、六波羅蜜。この修行プロセスを着実に実践しさえすれば、在家でも必ず解脱へと至れる！巻末には、高弟たちの体験談の特別付録付き。

B６判　定価８００円

PART-9
尊師、聖地インドを行く

尊師がインドを行く。不思議な神秘の力によって、様々な過去の事実を明かされる尊師。第一部では、信徒と共に行かれた巡礼の旅の全記録を、そして第二部ではなんと、今まで部外秘だった直弟子用奥儀説法を満載！

B６判　定価７５０円

PART-10
仏教真理　五蘊無我

わたしたち本来のものではない五蘊（形状・容姿、感覚、表象、経験の構成、識別）を我と錯覚し、迷妄に苦しむ人間。この五蘊を証智し超越することによって、わたしたちは人間を超え、神に至れるのである。

B６判　定価６５０円

PART-11


B６判　定価820円

自己を超えて神となれ！

——大人気を呼んだ尊師大学講演会特集——。東大、京大をはじめ、九一年の大学祭で尊師が若者に、現代における宗教の存在意義等について語られた模様を一挙掲載。

PART-12


B６判　定価620円

仏教真理　十二縁起

サキャ神賢が初転法輪でお説きになった「十二縁起の法」。魂の落下と上昇のプロセスを克明にえがき、人間がこの世に生を受け、絶対的な自由の世界へ至る道程を明らかにする。

PART-13


B６判　定価570円

これが尊師！

雑誌・テレビ・ラジオにと、今大人気の麻原尊師。尊師の人気の秘密は何か？　雑誌社からの取材を中心に、様々な角度から尊師の魅力を探る。

PART-14


B６判　定価570円

宗教の条件

今、本物が明らかになる！　真の宗教の条件とは？　第三次宗教ブームと呼ばれる現在、様々な宗教の中から間違いなく本物を選び出すための条件を、あますところなく説き示す一冊。

（価格にはすべて消費税が含まれています。）

● 全国の有名書店にてお求めください。弊社に直接お申し込みの場合は下記まで。

オウム出版
本　社　〒154　東京都世田谷区世田谷2-8-17　TEL03(3439)6043　振替　東京2-109325
営業部　〒168　東京都杉並区宮前3-8-11　TEL03(5370)1598

「幸せになりたい！
でも、信徒になるのはちょっと……」
そんなあなたに贈る
最高のプレゼント！

『えんじょい・はぴねす』の定期講読を申し込まれた方は、様々な特典が受けられる〝ＥＨ会員〟になることができます。ＥＨ会員は信徒ではありませんが、自由にオウムのイベントに参加できますし、全国や海外の本部・支部をいつでも利用できます。お気軽にオウムをのぞいてみませんか？

特典の一部を紹介すると……

◉オウム主催のイベント、説法会等へ自由に参加可。

◉幸福情報を満載したEH会員手帳をもれなくプレゼント！

◉成就者との対面および電話による悩み相談。

◉各種販売物を信徒価格で購入可。

〝えんじょい・はぴねすの会〟会員（ＥＨ会員）になるには？

※入会金無料。月刊『えんじょい・はぴねす』の定期購読を申込み、料金の払い込みが確認されるとＥＨ会員となります。
なお、定期購読の申込みは６カ月単位で郵送料込み6000円です。

※詳しくはお近くのオウム真理教本部・支部までお問い合わせください。



至福の未来をあなたの手に

オウム真理教

AUM SHINRIKYO

心身の悩みを解決したい
超健康体を得たい
豊かな生活を送りたい
素晴らしい人間関係を築きたい
スーパー・パワーを身につけたい
来世も幸福に生きたい
解脱し、永遠の至福を得たい



……などなど、様々な願いで頭がいっぱいのあなた。
日本でただ一人の最終解脱者・麻原彰晃尊師率いるオウム真理教は、完璧な教義に裏付けられた最高の修行法で、あなたの夢を早く確実に実現します。
素晴らしい未来を見つけに、あなたも気軽にオウム真理教の門を叩いてみませんか?

※資料請求券を貼付したハガキ、または電話にて最寄りの本・支部までご連絡ください。入信案内等、詳しい資料をお送りします。

キリトリ線

麻原彰晃の世界 PART15

資料請求券

◆各道場のご案内◆
富士山総本部　0544(54)1267
〒418-01　静岡県富士宮市人穴381-1
東京本部　03(3327)8565
〒156　東京都世田谷区赤堤2-42-5 杉田村松ビル1F
新東京本部（杉並道場）03(3396)9393
〒167　東京都杉並区下井草4-4-4　井口ビル2F
大阪支部　06(397)1022
〒532　大阪府大阪市淀川区西宮原1-8-14 八光ビル2F
福岡支部　092(474)2877
〒812　福岡県福岡市博多区博多駅前2-6-15 第一渡部ビル6F
名古屋支部　052(252)0709
〒460　愛知県名古屋市中区栄5-8-14 万国ビル3F
札幌支部　011(241)4938
〒060　北海道札幌市中央区北2条西2丁目19-1 チサンホテル本館2F
京都支部　075(371)3759
〒600　京都府京都市下京区堀川通り松原上ル五軒町384 松本ビル2F
仙台支部　022(268)3904
〒982　宮城県仙台市若林区河原町1-4-20 十全会ビル2F
金沢支部　0762(51)8457
〒920　石川県金沢市京町25-20 ソフトオフィスビル2+4 2F
高知支部　0888(84)8286
〒780　高知県高知市はりまや町2-8-8 安藤ビル2F
広島支部　082(264)6250
〒732　広島県広島市南区西蟹屋4-4-18 和田ビル3F
横浜支部　045(243)8079
〒231　神奈川県横浜市中区若葉町3-41-2 コスモ伊勢佐木長者町ビル204
和歌山支部　0734(24)2859
〒640　和歌山県和歌山市駿河町42 和歌山酒販会館2F
水戸支部　0292(26)8044
〒310　茨城県水戸市中央2-2-1 HDビル6F
船橋支部　0474(66)4965
〒274　千葉県船橋市新高根6-26-18
埼玉出張所　0485(74)6205
〒366　埼玉県深谷市萱場441-8
渋谷出張所　03 (3476) 5055
〒150　東京都渋谷区道玄坂1-15-3　プリメーラ道玄坂317号
〈海外支部〉
ニューヨーク支部　212(421)3687
8 East 48th St. #2E (2nd Floor), New York, N.Y. 10017 U.S.A.
ボン支部　(0228)616647
Auf dem Hugel 48, Endenich, 5300 Bonn 1, S.R.Germany

麻原彰晃の世界 PART15
『絶対幸福への道』
1992年 4月5日　初版発行
定　価　620円（本体602円）
発行者　松本知子　石井久子
編　集　オウム出版広報編集部
発行所　株式会社オウム
〒154 東京都世田谷区世田谷2—8—17
電話　03 (3439) 6043　振替　東京2—109325

ISBN 4—87142—032—9　C0014　P620E



麻原彰晃の世界 PART15

絶対幸福への道

ISBN4-87142-032-9 C0014 P620E 定価620円（本体602円）